

つてゐるといふこと以上にあまり野獸のそれと違つたところのない生活との間の相違を形づくるかも知れません。精神的人間生活の豊かな遺産に馴れきつてその力や生氣をあまり感じなくなつた吾々は、吾々にとつてありふれたものになつて了つた思想や発見の價値を輕蔑する傾向があります。これは物質的富の場合と變りがありません。吾々は吾々の物質的富の斷片がもつと貧しい憐人にとつてどれ程貴重なものであるかよく解りません。吾々の最早着なくなつた古着もまるで着る物を持たない人には慰藉さ落着きとを與へるかも知れません。吾々にとつてはもう考へる氣もしないほど馴染になつた様々の眞理も、全く無知なる者の心に入る時、彼等を人類同胞感にまでひき擧げるといふ役目を果すかも知れません。

就中、精神的寄與を實行するに當つて、吾々は僅かな成果、小さな成功をもつて満足するやう吾々自身を慣らすことにしませう。此處で私は一つの告白を致します。それは或ひは他人の爲に役立つかも知れません。若い時分、私は無料で圖畫の教授をいたしました。最初三十六名あつた生徒が段々に減つて十一名になりました。間もなく私はあまりに出席者が少いといふ不満からしてこの仕事を抛棄しました。これは甚だ間違つたことでした——十一名も三十六名もその價値は變りがな

かつたのです。そして十一名のうち一人でも残つてゐる限り、私は満足してこの一人の生徒を教ふべきであつたのです。教師の成功は彼が直接影響を與へる生徒の數によつて計るべきではありません。一つの生きたたましひが教師のたましひと結合して、同情同感をもつて教師の思想を受け、これで充分です、これで充分なことは數々の實例によつて證據立てられます。この一人の弟子が今度は教師の働きをし、そして思想は宣傳されるのであります。

書簡 四

高き教養ありながら何物をも産み出さぬ人の友人に

ジュベール——「時未だ到らず」か「時既に過ぎぬ」か——産出力の弱さ——心の三つの種類——著作家よりも黙せる學徒がより完全に近き精神生活に達すること——黙せる學徒は彼自身の天才に従ふこと——著作の禁斷による時の節約——著作せぬ者が多産なるものよりも一層大いなる影響を與へることあり。

僕が先週君の家でBに會うた時、君は客間で僕に向つて次の意味のことを囁いた——Bは極めて

教養の優れた人だが、彼の友人總ての大いなる遺憾にまで、未だ嘗て何等眼に見えるやうな目的の爲にその能力を使用したことはない。B自身が聽て吾々に加つたため、吾々はこの問題について談話を交すひまがなかつた。彼の談話を聞いて僕はひどくジューベルのことを思ひ出した。(これは僕がジューベルを親しく知つてゐたからではない——僕は彼の住んでゐたヴァイルヌーヴ・シユール・ヨヌヌの極く近くに居りはしたけれど——しかし彼は「面々向つて會はずともその人を知ることが出来る」といふさうした人物の一人であつた)彼の友人達はいつも彼に勸めて何か書かせようとした。するに彼は言つた、「Pas encore」(「未だし」の意—譯者)と。「未だ書けない。僕には長い平靜が要る」かう彼は言ふのであつた。平靜が来る、すると彼は言ふのである——神は自分の心に或る一定の時間しか力を與へない、そしてその時間はもう過ぎ去つた。それ故、セント・ブーヴの言つた様に、ジューベルには中間の時といふものがなかつた。時未だ到らざるか、時既に過ぎたるか何れかであつた。

これ程吾々には可成りありふれてゐて他の人達には可成り珍らしい事柄といふものはない。他の人達はナポレオンがアングルについて言つた様に「彼は余りに若い」とか、あるひはこれもナポレ

オンがグルーズについて言つた様に「彼は年が行き過ぎた」とか、さういふ風なことはよく口にす。しかし當事者自身が、初めはまだ準備が出来てゐないといふ執拗な遠慮から、後にはもう適當な時期は過ぎ去つたといふ理由でもつて、あらゆる企てから尻込みするといふことは、もつと稀である。しかし高い天分があつて、内氣で、デリケートで、不生産的だといふ極めて特殊な種類の心があります。あの人間は優れたことが出来るといふ殆んど迷信に近い信仰を周囲の人々の心に刻み附けながら、その信仰を裏書きするやうな仕事は何一つし出来さない、さうした人々があります。

しかしかうした人々が何等かの種類の生産力を持つてゐるかどうか、疑つてみる譯にいかないでせうか?、僕の信するところでは、ジューベルの生産力は現在傳はつてゐる彼の著作に全部著れて居ります。彼の著作に現れたところでは彼の天才は最も稀有なるデリカシイを有してゐるが、それと共に精神的努力を長く續けることは不思議に出来なかつたのです。彼は言ひました、自分は徐々にしか書くことが出来ない、そして書く時は極端に疲勞すると。彼は、しかし乍ら、この弱さはたゞ道具に——文字に表はすといふ能力に——ある許りで、思想の能力にあるのではないと信じておりました、なぜなら彼は「丁度他の誰々の力の背後には弱さがある様に、自分の弱さの背後には力

がある』と言つておりますから。

これを言ふ時、ジューベルはおそらく彼自身の力を大きく評價し過ぎては居なかつたでせう。彼は或る種類の力を持つておりました、あるひは寧ろ彼には「素質」があつたと言ふ方が適當かも知れません。彼には人に卓越したところがありません、これは社會においてもしくは文學において一種の力であります。しかし彼には生産力はなかつた、そして僕の信するところでは彼が不生産的であつたのはあまりにデリケートに過ぎる趣味の爲に沮まれたからではなかつた。不生産的といふことがそれ自ら實在であつた。つまり彼の心は生産する様な組織を有してゐなかつたのです。

セント・ブーブによれば、現代の一哲學者は人の心を次のやうな三つの階級に區別する習慣でした――

一、力強くあると共にデリケートな、自ら志す如くに卓越し、自ら意想するところを成就し、偉大なる眞實の美に達する人々――か弱き人類のうちの稀なる撰良。

二、デリカナイさいふ性質を特徴とし、自分の思想は自分の成就するところよりも優れてゐる、自分の頭脳心意は自分の才能よりも（その才能が極めて現實のものである時すら）偉大であるとい

ふことを感ずる種類の人々。この人々は自分自身に不満を感じ易く、容易に贏ち得られる功名はこれを輕視し、自分の意想や自分自身よりも下位にあるよりは寧ろ判断し、味識することを好み、生産を忌避する傾向がある。彼等が筆を取るならば、それは長い間を置いて、稀に、たゞ彼等自身の爲にそれをする許りで、出來上るものは断片である。彼等の生産は心内の生産で、それを知る者は僅少である。

三、最後に、比較的力強く左程デリケートでない、言ひ換へれば左程氣六ヶ數くない人々がある。この種類の人々は大きくして自分の仕事に不満を感ずることなく、生産を、自己發表を、續けて行く。

現在多くの展覽會場を滿たし、今日流行の文學を産み出してゐる畫家や文士の大多數は、この最後の階級に屬します。この最後の階級に吾々は文學美術の毎日の糧を大いに負うてゐるのであります。

ところがサント・ブーブの信するところでは、ジューベルはこの三つのうち第二の階級に屬してあります、そして私の推測によれば、セント・ブーブも他の多くの人達もこの階級を目して彼等の

實際の天分以上に潜在的の生産力を有しておると考へております。ジュベール階級の人々も彼等固有の道において稱讚に値し、價値を認めらるべきではありませんが、然し事實、彼等は外見だけでなく、實際に、生産力に乏しいのです。

さうして、吾々は彼等がさうでないことを欲する理由がありませうか？ 吾々が教養ある人が「何もしない」と言つて嘆くとき、それはその人が「書物を書かない」ことを意味するのです。教養ある人士は果して悉く書物を書かなければならぬでせうか、またそれは望ましいこととせうか？

あへこべに、より完全なる精神生活は書物を書く人よりは寧ろ無言の學徒によつて達せられるやう思はれるのです。公衆の爲の著作家は屢々甚だしく其の奴隸であつて、必要に迫られあるひは成功慾の誘惑するところとなつて（賣れない書物を書くことは利益がないと共に自慢になりませんか）自分の眞の行路から離れ、自分は最も興味のある題目を去つて左程興味のない題目に移り、そしてそれ故に愛の労働としてよりは寧ろ一つの實務として知識を獲得するものです。ところが決して書物を書かず、書物を書かうとしない學徒は、自己性來の天才に従ひ、自然の近似によつて自己

欠

欠

適用することが出来ると同じく、天才者の勤勉にも適用出来るのであります。

書簡 六

休息を取らぬ熱烈な友人に

ゲーテの或る詩句について——人は星の様に出来てゐないこと——マシウ・アーノルドの詩「自己信頼」——詩と散文——星を學ぶよりもより多く風を學ぶべきこと——グレン・クロオの石——休息し感謝せよ。

「ゲーテから啓示を得た美と智慧とによつて苦悶と悲哀とのうちに歡びを與へられ、自分がこの世で勤めてゐる役割に對して力附けられてゐた若きカーライルが、荒寥たる沼澤地方を、屢々この沼澤地方の如くに荒寥たる思想を抱いて彷徨ふてゐるうち、英吉利にある數多からぬゲーテ讚美者から彼等の讚美の徴しとして詰らぬ物でもワイマルに送つたならば、それは愉快なそして適當な事柄であらうといふ考へが突然彼の心に浮んだ。家に歸りつくミカーライルは早速彫物師に命ずべき

一個の印章の意匠を描いてみた。それは星を繞れる永生の蛇と

„Wie das Gestern,

Ohne Hast

Aber ohne Rast

Drehe sich Jeder

Um die eigene Last.”

(星の如くに、急がずまた憩はず、各人をして神の聖旨を果さしめよ)

ごいふ有名な詩句から引用した Ohne Hast Ohne Rast (急がず、憩はず) といふ言葉であつた(一)。これは實に美しい實に賢明な言葉で、金言として、生活の規則として、容易く人の心に落着くだらう。もしもこの美しい星の譬喩なしに、急ぐといふことの賢明な抑制なしに、平凡な散文でもつて休息をとるな言はれたならば、吾々の常識は直ちに叛逆を企てることだらう。しかし美と叡智

(一) リュイス著「ゲーテ傳」第七篇第八章

とが相並んでこの寶玉の如き詩句のうちに存在する故、吾々の判断力は魅せられたる納得のうちに沈黙してゐるのです。

然しながら、この星に倣ふといふことについて、吾々は人は元來星の眞似が出来るやう生れ附いてゐるかどうか考へてみよう。星は興奮の能力を有しない故に、急ぐことなく、疲労の能力を有しない故に、憩ふこともない。星は努力といふことをせず、何等の軋轢や抵抗にも遭遇しない。人は屢々興奮の刺激を感じる様に生れ附いており、そしてこの刺激は忽ち現實の加速度に、あるひは加速度の慾望——努力なしには抑制することの出来ぬ慾望——に變化する。人が何事かを企てやうとすれば、必ず軋轢や抵抗に遭遇し、そしてこの軋轢や抵抗は、彼にまつて、常に早かれ晩かれ疲労を持ち來す。人は星のやうに出來上つておらず、周圍との關係も星のやうではない、でそれ故に星が存在する如くに存在することは彼には不可能である。

君はこの批評に對してそれはデリケートな愛らしい詩の取扱ひ方として余りに手荒いといふかも知れぬ、また僕のことを常に東洋風の誇張をもつて表現せられる詩人の叡智を受けるに適しない者だと思ふかも知れぬ。ゲーテは確かに人は文字通りに不斷の勞働によつて自分自身を殺すべきだ

と言ふ積はなかつた。ゲーテ自身の生涯が彼の真意の最善の解説である。星の實例は、丁度基督教徒が基督の實例を見倣ふやうにした。人間の性質の許す範圍内で従うやう、吾々に向つて掲げられたものである。同じ精神においてマシウ・アーノルドはその高貴なる詩「自己信頼」を書いたが、その中で彼は吾々に向つて星や海の如く生きよと説いてゐる。

「あゝ、なむじ星よ、海よ」——余はかく叫びぬ——

「わが心の上に、またもやなむじ等が力強き魅力ぞ魅る

されど、されど、なむじ等を見詰むるとき

われをして我がたましひの

なむじ等の如くに擴がるを感じしめよ

深く、明かなる星空より

星影落つる海波の上に

そよ風吹く夜風のうちに、答あり

「なむぢ、星や海の如くならむと願ふや？」

さらば彼等の如く生きよかし

「周囲の寂寞に慣えず

眼に見る光景に心乱れず

自己以外の一切より

愛を、娯樂を、同情を要求せず

——星や海は、斯くこそ生くるなれ」

かうした詩的教訓の眞の意圖はそれが感情の上に及ぼす影響にある。ゲーテの詩句によつて、星が僕をして僕の勞働においてより着實堅固ならしめ、空しき焦燥の犠牲たることより少なからしむるならば、また、アーノルドの詩句が僕の心に根を下したため、星や海が僕の心の上に一層充分に彼等の力強い魅力を甦らせるならば、詩人達の仕事はそれで終つた譯である。しかし散文家の仕事はもつと實證的なものでなくてはならない、そして君はこの散文の實證的な助力を必要とするやうに思はれる。

君の生活は甚だしく星のそれに似てゐて、十分人間のそれらしくない。君はあまり急ぐといふことをせぬが、しかし決して休息を取らない、惠深き大自然が不可抗なる睡眠をもつて君を打ち倒す時を除いては。アーノルドの詩のなかの星や海と同じく君は周囲の物に向つて君に愛や娯樂や同情を與へよと要求することがない。星や海はかうした頭腦や心情の慰安なしにやつて行くことが出来るが、君にはそれは出来ぬ。休息が君の精神力を恢復せしむる爲に必要である。同情が君の全性情の濕氣なき輪蟲の如くに硬固することを防ぐ爲に必要である。愛がこの世をして君にまつて美しくあらしめんが爲に必要である、丁度あの鳥類の羽毛が彼等が配遇を得る時立派になるやうに。娯樂なくしては君は快活さを失ふ。賢者が青春の最善の資産として、只管失はざらんことを努めるところの快活さを。

君の休息をして、その時に當つては、全き休息であらしめよ、恰かも靜穩なる海洋の休息のやうに。君の生活にも模範が入用ならば、絶え間なく廻る遊星をとらず、たへず干満しまた流るゝ大洋を取らず、停まるこゝを得ぬ河流を取らず、寧ろ君の生活をして夏の大氣の如く——時あつて氣高き精力を振ひ、時あつて全き平和に眠る夏の大氣の如くあらしめよ。それは海上の船の帆を滿し、

また微風吹く高地にあつて水車屋の主の感謝を受ける。それはあらゆる者の健康と富との爲に骨身惜まず働きながら、しかも休息の時を失はない。——「自分は艦隊を進ませた、自分は水車を廻した、自分は都市を甦らせた。今はたゞへ艦長がいら〜と後甲板を歩み、水車屋は呪ひの言葉を吐き、都市は得ならぬと悪臭を發しておるにせよ、自分はもう氣が向くまで軀を働かさぬ。」

君は多くの事を學んだが、唯一つ學ばないことがある——それは休息の技術だ。かのグレン・クロオの石は、ラッセルがそれに新聞紙上の名聲を與へるよりもすつこ前から、多くの旅人の心にその教訓を刻み附けたに相違ない。吾々——君と僕と——は、疲れた馬共がまだあの難澁な小山を徐々と馬車を牽いて登つてゐるうちに、少しさきにあすこに着いて休息した。そして芝生に腰を下して、霧の籠めた谷間を見下した時、吾々はあすこに彫り附けられたあの教訓を読んだ。あの曠野にあの碑を立てたといふのは實に結構な、情知つた考へではないか。あの碑銘は人間の弱さや困難に對して實に同情に充ちたものではないか！嘗て青春の熱い念ひのうちに、僕は僕の前に天空に輝く金色の星を見、その周囲の深青に「急がず、憩はず」いふ強い炎の文字を読んだ。しかし今僕の眼には、「憩へ、而して感謝せよ」といふ碑銘のある、地上に建てられた一つの平凡な石が

より、屢々現れる。

あの石は少し墓石臭くはあるまいかね？ あるひは墓石かも知れない。しかし生きてるうち休息の必要な時にそれをこつておけば、墓場の休息はさう早く必要であるまい。

書簡 七

休息を取らぬ熱心な友人に

時の浪費の後悔は屢々無用の後悔であること——Flânerieに關するチリエの説——如何に多くの物が怠惰の時に得られるか——セント・ブーヴの確信——嚴格な訓練——心の自由な動きが必要なこと——砂粒の自由——蜜蜂の自由

何人にせよ精神勞働に従事する者に向つて、もしも君の生涯が今一度繰返されることすれば、君は何を爲さうと望むかと訊ねてみるならば、その答へは、形式の如何はともあれ、必ずや結局次のやうなことになるだらうと思ふ、すなはち「自分は自分の時間をもつて經濟に使用したい」と。しかし萬

一その機會が彼に許されるならば、彼はやはりさういふことはすまい。おそらく彼は社會習慣によつてもつて權威づけられた遣り方で時間を浪費するだらうが、浪費することはやはり彼れ獨得の流儀でそれをしたのミ少しも違ひはあるまい。然るに吾々は、もしも今一度この世の時間を持つてこゝがあれば、今度はもつとよくそれを使用することが出来るかの様に考へる。

僕の過古三十年の生涯を振り返つて見る時、眞實浪費したと思はれる時間は何等か外的の權威に服従して心身を勞するうちに費した時間のほか見當らない。クロード・チリエが「浪費された時間が最もよく使用されたる時なり」といふ不滅の一句のうちに言ひ現はした説は危險な説ではあらうが、しかし危險であるにせよないにせよ、それは智性上の眞理に満ちてゐる。吾々が通常浪費した時と考へるものを、吾々の生涯の總量から取り去るならば、必ずや吾々は偉いなる精神的貧窮の爲に苦しむに相違ない。何はさて置き、人類の最善の知識が、勤勉な人々によつて浪費の時と見做される時間——すなはち快樂や休養の時間に得られるのである。吾々が休養の時間中に、俱樂部や喫煙室で、狩獵の野で、クリケット場で、快遊船の甲板で、馬車の座席で、學び得た人間に關する知識を悉く減き去るならば、その殘餘には何程の價値があらうか？ それは蔽はるべく何等温か

い肉を持たない乾十びた骨の堆積に過ぎないではなからうか？ 現在吾々の教養すらも可成りな程度において、いはゞ學校以外で、といふのは、吾々の一段々重要な生存の義務として認められてゐるもの以外で、得られたものである。今日四十以上の英人で學校の課業もしくは職業上の準備として英文學を研究した者は少い。彼等はそれを一人で、自分の興味から讀んだのである。今日四十を越してゐる英人で、單なる趣味や傾向からでなく、何等かの義務に従ふために近代諸國の語や科學や美術を研究した者は少い。そして吾々は假令是等のものを、今日の青年がするやうに正式に勉強するとしても、外國語や美術の芳香を手に入れるのは、正式の研究からではなくて、外國の土地や美術館で過す怠惰な時からである。實際的な仕事に携はる者に向つて怠惰を勧めるのは餘計なことであるが、精神労働者はあまりにも屢々怠惰の價値を軽く見る。勤勉な精神労働者は勵精刻苦の習慣をつくるが、それは時としてその最善の活動にとつて障害物となる。

「多分秘かに自分自身の怠惰の言譯をする爲でもあらう、またおそらく一切が結局同じことになるといふ原理についての一層深い感情からでもあらうが、自分は遂に次の様な結論に到達した。自分が何を爲さうと爲すまいと、研究室で不斷の労働に従はうと、新聞雜誌の記事を書いて自分自

身をばら撒かうと、交際社會で自分自身を打ち擴げやうと、厄介な訪問者や貧民や街上の會や、その他何人、何事に、自分の時間を投げ與へやうと、自分は同じ或る一事を爲すのである。同じ或る書物を讀むのである。この世界および人生の無限の書物（何人も永久に讀み了らぬもの、最も賢明なる者が最も遠くまで讀み進むもの）を讀むのである。自分はあらゆる頁を、それが現れ来るまゝに讀む。千裂れ千裂れに、後戻りしつゝ。しかしそれが何であらう？ 自分は決して前に進むことを止めないのである。混雜が大きければ大きい程、故障の入ることが多ければ多いほど、自分はこの書物を——誰も中程以上に讀み進む者のないこの書物を——ますます前へ讀み進む。しかし利益はその各種各様の頁が眼の前に擴げられてあることにある。」

或る著明な作家が左程著明でない別の作家に向つて書き送つた。「君は本當に元氣な勤勉を澤山やつて來たが、まだ君自身に裝具を附けたことはないね」ミ。彼の裝具と謂ふのは軍隊的鍛練のやうに前以て定められた訓練のことである。ところで、鍛練の利益は明かであり、極めて一般に認められてゐるが、精神的 Flânerie（漫步）の利益はさ程一般に認められてゐない。精神の働きが明晰で健康である爲には、心が大いなる自由と餘裕とをもつて働いておることがどこまでも必要であ

る。外的規制は一時間二時間の仕事にはよいが、最もすぐれた精神力は決して装具を付けてそのすぐれた働きをしたことはない。多くの生氣活力の籠つた書物を讀むに、吾々は必ずそこで多くの譬喩や説明に出遭ふのであるが、著者がそれ等を射當てたのは、彼が装具を付けて仕事をしてゐた時でなく、緑の野で自由に草を喰んでゐた時なのだ。装具は吾々を訓練して、組織的に仕事に當らしめ、規則的な運動によつて實際的な力を増加させるが、しかし心の完全な發達に必要なあらゆる事物を供給しはせぬ。事實は、吾々は装具の訓練と自由な牧場の豊富な草と双方を要するといふとである。しかし、吾々の自由は砂漠の砂の無益な、無撰擇な自由でないことが望ましい。それは風の吹く儘にあちらこちらに持ち運ばれ、何物を得ず何等改善進歩することなく、昨日何處に運ばれ今日は何處に落つるにせよ、そこに何等の意義もないのである。吾等の自由をして寧ろ蜜蜂の自由であらしめたい。彼等は來るも往くも何等師の命を俟たず、豫定の規約に従ふ譯でもないが、しかも利益を増す機会を失ふことなく、薄暮に及ぶや收穫を背に負ふて歸るのである。彼等が何處を彷徨ふたか誰が知らう！ 何處の流れ、何處の土境に彼等の翼の唸りが鳴り響いたか誰が知らう！ 自然のうち何物か彼等より自由なものがあらうか？ 自由の合理的使用をよりよく説明するものが

あらうか？ 小さな装具が彼等のために造られたならば、彼等は彼等の仕事をより良く爲すであらうか？ その時は何處にかの黄金色の蜜があり、何處にかの蜜房があらうか？

書簡 八

新聞を讀む習慣を全然止めたといつて祝賀する教養高き友に

時の經濟において得るところ——新聞の記事は多く教養に役立つこと——人々は「新」事實に重きを置き過ぎること——黨派心によつて事實が曲げられること——偽りの報告の一例——新聞忌避は心の靜穩に益するところあり——新聞は人間相互の日常の興味をつなぐ——佛蘭西の百姓——新聞好きの亞米利加人——新聞を全然忌避した實例——オーギユスト・コント——エマ・ソンンの暗示——新聞通信員の仕事——從軍記者——スタンレエ氏——タン新聞のエルゲン氏

君が新聞を讀むことを止めたといふのは、そのこと自身としては新しい實驗ではないが、特に君の場合には新しい出來事であり、僕も興味をもつてその結果を待つてゐます。僕は君自身の世紀に

關する一般の興味利害から全然縁を斷つていふこと（新聞を忌避するといふことのうちにはさういふ意味が含まれております）が、君のやうな素質を持った精神生活者に、どういふ影響を與へるか、それを觀察することに好奇心を覺えます。一方にどういふ損失があるにせよ、それに對抗する確かな利益のあることも明かであります。君がこれまで新聞に與へて來た、一ケ年およそ五百時間と算せられる時間は、今後君の最善の智恵が撰ぶまゝに、如何なる目的にも適用せられる貴重な時の収入となります。精神生活者が單なる一つの決斷によつてこの様に立派な經濟を生み出すことが出來た時、彼が自身を祝賀するといふのは尤もなことでもあります。君の感情は國庫の大きな漏り口を塞ぎ止める手段を發見した腕利きの大藏大臣のそれに似てゐるに相違ありません——もしも國家の財政において可能な經濟政策が君の意志力が可能ならしめた時間經濟上の素張らしい遣り口に比較するここが出来るならばです。今君のものとなつたこの五百時間でもつて、君は一つの科學に通じ、あるひは君が研究してゐる國語の一つを、一層完全に手に入れるでせう。あまりに不完全な習得であつたが爲に、これまで君に満足を與へなかつた君の精神勞働のある部門が、今後は手入れの行届いた果樹園のやうに秩序立ち、實りも多くなりませう。君は、興味の缺除からでなく、時間

の不足のために疎略においた二三の大作家の作品に十二分な通曉を得るでせう。君は長年のあひだ閉されてあつた古い記憶の部屋を開くでせう。君は蜘蛛の巣を取り拂つて新しい光を入れ、もう一度そこを人の住み得るやうにするでありませう。

是等の利益に對して——是等のうちの若干は君のやうな勤勉な人にまつては確實なものであり、確かに當てにすることが出來ます——犠牲あるひは損失の方面はどれ程に見積らねばならぬでせうか？ 吾々の新聞紙上で讀むところの多くが吾々の教養にとつて役立つといふことは、君にも僕にも明かなことです。新聞論説の大部分は數ヶ月のうちに起るであらう事柄についての臆測を事とします。それ故、その時が過ぎ去るまで待つておれば、吾々は何の役にも立たない臆測に時を浪費するに及ばずして、その事件を知ります。今一つ新聞記事の可成り大きな部分を占めるものは、新奇な爲にその日その日の興味をつなぎはするが、聊かも永久的な意味を持たない些細な事件であります。英人や亞米利加人のやうな新聞好きな國民の間では、全新聞擧つて、誰でも六ヶ月経てば忘れて了ふやうな出來事を一二週間に涉つて活潑に論じ立てます。そしてかうした煽動的な出來事以外に左程著明でない、往々にして架空な數多くの報道が、單に讀者の刹那的な興味の爲に挿入され

ます。精神生活に及ぼす影響において、新聞の最大の害悪といふのは、彼等が單なる新しさといふものをひどく大切にしないで、生れなから生れます。精神生活者の立場から見れば、二千年以前にアリストテレスの胸に生れた思想であらうと、昨日ダーウィン氏が考へつたものであらうと、さうした年代とか時日とかは問題になりません。発見の時日に關係なく、あらゆる眞理に興味を持つことが出来るといふのが、眞に精神的な者の明白な特徴であります。新聞紙が新しさに重きをおくことは、丁度提灯のある爲に極く近いもの許りはつきり見え、一般の景色が對照のため一層暗く見えるやうに、物事を間違つた關係において現して見せます。斯く事物を間違つた關係において現して見せるほかに、輕燥な黨派心から故意の牽強附會が生じ、それが國境を越えて他國にまで擴ります。自國におけると同じく他國においても、強い黨派心を持つておる記者によつて、佛蘭西新聞に英吉利の事件が曲報せられ、英吉利の新聞に佛蘭西の事件が曲報せられることは、それだけでもつて裕に一小論文の題目に値する。「エックスの貧しき労働者の倅にして、若き頃一新聞記者に過ぎざりしアドルフ・アス・チエールが佛蘭西政府の首長となれるは、彼にとりていとも名譽のことたり。」一八七〇年英吉利の巴里通信員が送つたこの記事は、黨派新聞に共通な「曲報」の立派な

標本であります。この記事の出た新聞は事實英國ボナパルト黨の主要な機關紙の一つで、強くチエールに反對してゐました。チエールがエックスの貧しい労働者の倅だといふのは眞實でありません。彼の父はマルセイユの職人であり、母方の一族には富も教養も稀でなくて、チエールは母方の親戚の手で公立中學に入れられたのでした。一步々出世の階段を着實に踏み登つた點で著しい一つの活動的生涯の二つの極端をかうして結び附けた時、この新聞記者の目的は、不釣合さか、それが唐突な、似合はしからぬ出世であるさかといふ考へを讀者の心に起すことでありました。しかし、チエール氏のみならず、總ゆる人間は極めて微々たるところから發足するのです、何となれば誰でも生涯の初まりは嬰兒であるから。一個の嬰兒が佛蘭西共和國の大統領になるのは非常な出世であります。英國宰相の印綬を帯びた多くの嬰兒達も大した出世をした譯であります。問題は、チエール氏が七十年前にどういふ物であつたかといふことでなく、彼が國家最高の官職につく直ぐ前はどいういふものであつたかといふことです。彼は最もよく信頼された、最も經驗の豊富な市民でした、でそれ故に彼の生涯の最後の階段は、レイノルズが翰林院總裁の地位に昇つたのと同様自然な事柄でした。

正義を念ふ者が屢々心を焦立つることなくして黨派新聞を読むのは困難であります、そして新聞が何れの味方をするかといふことは問題になりません。人々は論争に際して極めて偏頗不公平である故、論争的な調子を持つたあらゆる書き物を忠實に避けることは、精神の安靜を保つに最も良い手段であります。新聞忌避といふ新しい規則によつて、君は疑ひもなく時間を得るご共に精神の安靜さいふ點で多く得るところがあります。通常の新聞讀者には安靜を失ふごいふ虞れはほとんどありません、なぜならば、彼は自分と意見を同うする新聞のみを購讀し、また如何程それが不公平であるにせよ、彼はその不公平が氣に入るからです。しかし最高最善の教養は吾々をして吾々自身側の偏頗不公平にも賛成させません。吾々はそれを苦痛に感じます。吾々はそれを耻しく思ひます。吾々はそれの剛腹邪曲を嘆きます。

僕は君の新聞忌避規則についてその結構な方面をほとんど言ひ盡しました。僕は新聞が吾々から多くの時を奪ふことを、その時は、もしもこれを偉いなる精神上の目的に用ふるならば、吾々に長足の進歩を與へるであらうことを認めました。彼等は新しさに重きを置いたため物事の觀方が不均齊であり、黨派に付き物の偏頗不公平によつて偽りの報道を與へるごを認めました。なほまた、新

聞記者が政治に——政治哲學でなくて政治屋の仕事に——非常に重きを置くため、精神的教養は後方に押し遣られて、一議員の撰擧が有力な一つの思想の誕生よりもより大いなる國民的事件らしい外貌を與へられるといふ事實を書き加へてよからうと思はれます。がしかも猶、精神生活者にとつて眞實重要なあらゆる斯うした考慮にも拘らず、僕の信ずるところでは、君の決心は賢明でなく、君は其れの到底維持すべからざることを發見するでせう。一つの極めて重要な理由が是等の考慮總てを合せたものをも壓倒し去ります。新聞の全文明世界におけるは、日常の一家内の談話が一家族の人々におけると等しい。新聞は吾々をして吾々相互間の日常の興味を維持せしめ、孤立の禍ひから吾々を救ひます。偉大なる白人種——歐羅巴、亞米利加、および占有を欲する儘に殖民し征服したあらゆる土地を充せる種類——の一員として生きる爲には、それが願望や憂慮や思想や憧憬を日毎に共にせん爲には、何人も皆日毎に新聞を読むといふことが必要であります。何故に佛蘭西の農民は海を見てしかく狼狽し、また現代の世界においてしかく仲間外れになつておるか？それは彼等が新聞を讀まないからであります。さうして何故に合衆國の住民は、佛蘭西に比ぶれば十四倍の面積を占むる國土に散在しながら、しかく統一ある政治的行動が出來、しかく生氣と現代精神とに富

み、しかくあらゆる種類の新発見に興味を有してその最善のものを撰擇し利用することが出来るか？ それは新聞が遍く行き渡り、草野や森林の孤獨なる住民すらも、電報や新聞を通じて流るゝ國民生活の大いなる潮流から精神的に孤立することを免れておる爲であります。

新聞なしにやつて行くといふ實驗は、佛蘭西農民といふ一階級全體によつて試みられ、その結果は吾々の知る通りであります。それはまた時々社會のより開化せる部分に屬する個人によつて試みられることがあります。こゝに一例を取つて、この新聞忌避の結果が如何様の觀を呈したかを考へてみませう。オーギュスト・コントは、丁度禁酒家が酒精の入つた飲み物を避けるやうに新聞を避けました。ところがオーギュスト・コントは、比較的小さい程度のものならばこの世にあり觸れてゐるが、彼が所有してゐた程の程度になると巨大なダイヤモンド以上に滅多と見附からない、さうした自然の賜物の一つ持つておりました。この賜物といふのは、丁度實際家が物質的な事柄の間に住み、それを取扱ふやうに、抽象的な思想を取扱ひ、常にそのうちに住するといふ能力でした。そして人が極めて特殊な天分を享けてゐる際あり勝な様に、コントの場合にも、彼の天分はその完全な發達と保存との爲に必要な様々の本能を伴うておりました。彼は世間の人々との談話が自分の

能力の完き發達に有害だと思つた爲に、それを避け、また同じ理由からして新聞を禁じました。斯うした不自由を彼自身に課することに於て、コントは現存の著名な銅腐蝕版技師に似てゐました。この銅腐蝕版技師は、生來手の働きが無上にデリケートで、それを失はない爲に彼はしつかりした神經の作用を損ふやうな物は一切避けてゐるのです。然しながら、この二つの場合を比べてみるにそこには確かな相違があつて、僕は特にそれを強調しようと思ひます。銅腐蝕版技師はその禁斷の規則によつて如何なる危険をも冒しません。彼は幾つかのあり觸れた娯樂や飲食物を遠ざけはするが、健康に必要な何物をも禁ずることはしません。一步を進めて僕は斯う言つてもよい、彼がその技術の完璧を期するが爲にまもつておるところの規則は、藝術に携はらぬ多くの者も、彼等自身の安靜の爲にこれを守つて利益があり、そしてその爲失ふところは快樂のほかは何物も無いと。これにひきかへ、コントがコント自身の爲に設けた規則には偉いなる危険があります。まことや、彼は尋常人の興味や考へ方から全然隔離した生活のうちに、その實證哲學の思想を磨き上げたが、しかし彼がその後になつて到達した風變りな精神的頹廢は、彼がもしも新聞の粗野な常識に接しておれば、これを防ぐことが出来たかも知れない、いなおそらく防ぎ得たらうと思はれるのです。新聞は彼を

あの神秘主義——不合理なる點において古來の諸宗派中最も非論理なものをも遙かに超えた一宗教の創造に導いたあの神秘主義——から彼を救つたであらうと、僕は眞面目に信ずるのです。事實上の癡狂を想像しない限り、「タイムス」や「タン」や「デイリー、ニユース」や「土曜評論」を始終讀んでゐる者が、人類にとつてコントの三位一體説や、コントの處女母性説を成熟せる一宗教として受け入れることの可能を信じやうとは考へられない。「偉いなる存在（すなはち人類）偉いなる物神（すなはち大地）および偉いなる中間物（すなはち虚空）をもつて成る三位一體、婦人が男性の助力なき獨立の母性に達するといふ（何と生理學を無視したことであらう！）人類に對する希望——是等は現代思想の習慣ばかりでなく（一層重要なものであるところの）その傾向と極めて縁遠い考へであつて、絶えず現代の空氣を吸うてゐる心には到底起りやうのないものであります。

「日毎新聞を讀む量を標準的の作家の著作に移したらば？」このエマーソンの暗示に對しては、その損失は利益よりも大きからうと答へてよいと思はれます。アン女皇時代の作家はアン女皇時代の英人を教育することは出来たが、ヴァクトリア朝の英人に對してはたゞ部分的に教育し得るに過ぎません。人の心は商人の持つ原簿の様なもので、絶えず最近の日附のところまで書き入れておか

れなければなりません。二三分前の電報が古來絶對のものとして受容されて來てゐる學説を轉覆してゐるかも知れないのです。

歴史的な事件が吾々の眼前を過りつゝある時には、新聞記者の將來の歴史家に對する位置は亞米利加の旅行者の地圖を造る人における如くです。彼の仕事は斷片的で秩序もない。しかしそれは目撃者の生き生きとした記録であつて、吾々自身をしてこの世の豪勢なドラマの見物人たらしめま

す。肉體精神兩様の勇氣をもつて、最大の危険に身を曝し、文筆上の仕事に最も都合の悪い境遇にあつて多くの巧みな記事を草するといふ、今日新聞の通信員のやつておる英雄的な妙技は、以前は嘗て見られなかつたところでありませう。英吉利の戦地通信員は獨佛大抗争の實況を如何ばかり鮮かに吾等の眼前に齎したらう！スタンレーのリヴィングストン發見は、まことに英雄詩中に謳はれる價值のある浪漫的な功蹟であります。エルダン氏がタン紙に寄せた一連の書簡はこれに劣らず興味のあるもので、氏は、是等の書簡のうち、老手の確實さをもつて、毎週缺かさず、數年に涉つて、羅馬法王が地上權の衰亡を、生の儘に描き出しました。僕は羅馬史のうちにエルダン氏の書簡にまして面白く、知識に富み、生氣に満ち、もつて典據とすべく、讀むに値する頁があらうと

は思ひません。しかも君は君の新聞侮蔑によつて、この利益と楽しみとを悉く失ひ、その代りこの法王が地上権の衰亡に比べれば半分の興味もない古い年代の記録を、多くの場合只管書庫に籠つて自分が嘗て會うたことのない帝王について述べ、言葉を交したこともない人民についてその状態を記述せんと試むるやうな人々の言説を、求めるのです。君はかうした記録が書物の體裁をとり、革の表装を與へられ、歴史と題されるが故に、これを尊敬し、エルダン氏の如き人の親しき觀察の記録は、彼が一介の新聞記者であり、その書簡が新聞に記載せられる、といふことの故に、これを蔑視します。そこには若干の偏見があり、若干の過失があり、貴族主義の若干の狹陋がありはせぬでせうか？

書簡 九

よく現代文學を味へる一作家に

作家の利己主義についてミットフォード嬢の言葉——エマーソンの暗示——彼の簡潔な規則——嫉妬心の痕跡——一層微妙な感情の痕跡——一つの矛盾——現代の侵入に抵抗する必要——精神

の平衡——街學者と正反對のもの——最善の古典作家は街學者でなく藝術家であること

いつかミットフォード嬢の書簡を読みながら、僕は丁度眼が深紅を見ると綠色を想ひ出すやうに君のことを想ひ出しました。文學に對する興味が時代と歩を共にしており、新しい作品はそれがよい作品である限り歓迎しないといふことのない君は、ミットフォード嬢の非難から安全であります。しかし嬢の非難に値する作家がどれ程多いことでせうか？ 嬢がその手紙のなかで言つておるのは一方に牧師の勤めをもつてゐる或る人のことで、それこそ認めるに難くありません。

嬢は斯う言つております。「私はあの人が聊かでも他の作家の作品に興味を持つのを見た例はありません、あの人自身の追隨者かあの人自身の仲間、あの人を賞讃したり、あの人の力になつたりしてゐる人達の作品は別ですけれど。あの人は勞働者とか死にかけてゐる友人とかに非常に同情があり、非常に親切です。しかし私は作家といふもの、甚だしい利己主義には兎に角驚嘆せざるを得ません。私は自分自身の詩以外誰か他人の詩に注意を拂ふ詩人は一人として知りません。概して、彼等は彼等自身の書き物——といふのは、彼等が現在やつてゐる仕事——に必要な書物以外ど

ういふ書物も読みません、そしてさうした書物を讀む時すら、彼等はおそらく自分が即座に必要とする僅かな點を讀むに止まるのでせう。御承知の通りワーズワースはあらゆる近代の作品を全く知らずに生きておりました。そして客に對するお愛想から、二三節讀んだり傾聴したりすることが必要と思はれる場合には、その作家自身に對して躊躇なく賞讃を與へたけれども、それをすることが彼のために善いであらうやうな處では、この賞讃を繰り返さないやうに特に意を用ひました。——如何にも尤もなことでもあり間違つたことでもありません。

吾々の知つておる若干の作家や學者にこの同時代の文學に對する冷淡な氣持が窺はれる。彼等の書く物にすらその痕跡が明白に見え、私生活や習慣には一層明かに現れる。エマーソンは眞面目に次の言を爲した。「もしも二流以下の作家が悉く失はれるならば——例へば、英吉利においては、シエークスピア、ミルトン、ベーコンの三人を除くのほか悉く居なくなれば、人々は是等の驚くべき人物に一層惹き附けられ、一層深い研究を爲して、少からず益するところがあらう。」これと同じ精神を現した「著名なる書物のほか讀むこと勿れ」といふエマーソンの簡潔な掟があるが、これに對して吾々はもしも人々が最初からこれに従うたならば、古來一つの書物も名聲を贏ち得る

ことなく、何人が如何なる書物を讀むこともなかつたらうと答へたくなる。英吉利文學をシエークスピア、ミルトン、ベーコンの三大家に限り、他の總る作家は故意にこれを失ふといふ考へは、僕にとつて讀書における貴族主義精神の最も濃厚な現れの如くに思はれます。それは恰かも社會から三人の皇帝を除くのほか總ての人を排斥したならば、社會はもつとよくなるであらうと思ひ定めたかの様であります。精神界の王者として認められた者の光榮を纏うて現れる書物のみを讀むといふことには、自己の判斷に依頼する心の缺乏と他人の評價に對する過大の信仰とがあります。讀書は知識を得るため、良き思考の暗示を得るため、もしくは想像力に刺激を受くるためであります。

讀者に知識を與へるといふ點で最も良き作家は常に最も近代の作家であつて、ベーコンでは不足します。思考の點においては、吾等の思考法はミルトン以來精確さにおいて得るところあり、また吾等はミルトンに比べてより大いなる經驗の助力を有します。シエークスピアやミルトンが吾々の爲に今日依然として爲し得る一事は、吾々の想像を豊富ならしめ、それに快き刺激を與へるといふことであります。しかし近代の作家も吾々の爲に同じ務めを爲すことが出来ます。

ある作家達が執拗に同時代者の作品を避け、他人にまでそれを避けしめようとするこのうちに

は同時代者に對する多少の嫉妬感があるのではなからうか？ いな、嫉妬感以外の或る感情、もつと微妙な作用をする感情、比較的名の知れておらぬ同時代者の間にすら吾々自身のに劣らぬ功蹟が見出されはせぬかといふ漠然とした疑懼、さういふものがあるのではなからうか？ 讀書を極めて有名な古書に限定する限り、吾々はこの懸念の爲に惱まされる懼れはない、なぜならそれ等のうちに讀むべき性質を見出す時、吾々は世間がそれを認めてゐることを知り、吾々自身の優れた性質も等しき公正をもつて後世がこれを認むるであらうといふ希望に涵ることが出来るからである。然しながら、三四流の名聲の、もしくは全く名聲なき同時代者が單に生活の爲に書いたもので、しかも充分吾々自身の作との比較に堪へるやうな作品に多く接する時は不愉快な不安の感情がそこに生み出される。著作家が公衆に向つて現代文學を讀むやう注告する最後の人だといふことは自明の理である、何となれば彼自身が現代文學の作者の一人であるから。そして出版によつて自分の著書を流布せしめることゝ、その書が含むこの忠告との間には直接の矛盾がある。エマーソンが吾々の日毎の讀書を新聞から標準的作家の作品に移してはどうかといふ時、彼はこの明白な箴擧返しの苦痛から安全である。しかしかうした種類の言葉は此の世に甚しく蔓つてゐる社會習慣に對して精神生活

者にも出来る反對運動以上の何物かであらうか？ 世人の大半——精神教養をもつてこの世の確固たる目的の一つとせぬ者總て——が爲すところの讀書は、過去の大作家の總てを無視するといふこととに不思議なほど一定しております。巡回文庫が供給する書物、評論および娛樂雜誌、日刊新聞の類は新しいうちに讀まれるが、標準的作家の作品は書架の上に並べられたまゝ、絶えて開かれることがありません。この新しい物の侵入に抵抗する爲には確かな決心を要します、なぜと言へばそれは絶えざる河流の如くに流れ入つて、確乎不拔の規律や決心の堤防をもつてそれに対して吾々の時を保護しない限り、吾々の時は隅々隈々までもそれをもつて充溢されるからであります。その生涯は教養に捧けてゐるけれど、住居は大陸の片田舎にあつた一英人の直話ですが、この人は英國圖書館制度の埒外に住んでゐることが彼自身にとつて確かな利益であると考へました、といふのは、新しい書物を読みたく思ふとしても、彼はそれを自分で買はねばならず、その上少なからぬ馬車代を要する故、書物の撰擇に勢ひ至上の注意を拂ふことになるからでした。同じ理由からして彼は最も近い英吉利の新聞縦覽所が自分の住居から二百哩も遠方にあることに悦びました。

然し乍ら、また一方、古典作家以外何物をも讀まない人の心の状態は何うでせうか？ 彼は精神

上の尼寺に住んでゐるのです。彼は古典作家そのものをも了解しないでせう、何となれば過古はこれを現在の知識と照し合せて見た時初めて了解されるものですから。

吾々の心はこれを平衡の状態に保つておき、邪曲と見ゆるものに對する嫌惡のためそれと反對の邪曲にまで驅り立てられないこゝが肝要であります。吾々は極めて屢々小兒達が磁石をもつて惹き附けるところの、口に鋼鐵の小片のついた小さな玩具の魚に似ることがあります。磁石の陽極を持つてゆけば、魚は直様それに飛び附きますが、陰極を差出せばそれは段々に後退します。萬物悉く、吾々の性格との關係上、この陽極もしくは陰極をもつており、吾々は事物に對してそれに飛び附くか或は後退するか、どちらかします。人によつては最も興味のある作家から、彼等が偶々古典家と呼ばれるものである故に、また術學者共が彼等の作を讀んだことを誇りとするが故に、逃け去ります。僕は術學者と正反對の人を一人知つておりますが、その人は因襲上「古典」を呼ばるゝ作品を根氣よく讀み通した報酬として社會的に、精神的に高い地位を要求するところの術學者の術學振りな怖れ、そしてこの術學者に對する反感が彼をして古典そのものを厭惡せしめ、彼をして決して古典の頁を開かしめません。世上に流行する著名作家崇拜の淺薄な見得は彼の性格の基礎を爲

すところの正直と現實との愛にとつて甚だしく不快であるため、不幸な觀念聯合の作用により、彼は古典作家そのものをも厭惡するに到つたのです。しかしホレースやテレンスやシエークスピアやモリエールのやうな人々は、術學者共によつて稱讃され、註釋されるといふ不幸を持つてゐるけれども、彼等の生涯においては術學者の正反對でありました。彼等は人間性の研究を事とする藝術家で聊かの衒ひ氣もなく萬人共通の人間世界に住しておりました。術學者共は是等の懇篤な古への藝術家達をもつて彼等自身の私有財産と見做す（そこに何等か神秘的な方法があるかの如くに）習慣があります、なぜなら術學者共は彼等を説明し註釋して生きてゐるではありませんか？ さうして吾々のうちの或る者は是等の冷酷な番人を見てこの最も美しい詩の領域から驚き怖れて飛び去るのであります。

書簡 十

極めて不規則な生活を送つてゐる著述家に

ジュリアン、フーレン——彼の夜更し——習慣が生む規律——主要な努力に用ふべき時——主要

な努力は最善の時に爲さるべきこと——醫者は夜更よりも早朝を奨むること——ゲーテおよび二三現代作家の習慣——朝仕事をする者——夜の仕事——醫學上の反對論——學徒は日中の仕事を喜ばぬこと——大人の時間と小兒の時間——心の調整の速さ——この能力に秀でたりしキュヴィエ——ウエリントン公——仕事の種類によつてこの作用に難易あること——細密な規則の奴隸——規則は寛大なるをよしとすること——備忘録は實務に可なれども高き智的追及においては然らざるこゝろ。

時間使用上の君の習慣を聞いて僕はジュリアン、フエーンのことを思ひ出しました。リットン氏の語るところによれば「本職上の仕事に長い一日を送り、社交上の娛樂に夜更しをした後、彼は朝の一二時頃その書物に復つて、日の出づるまで、疲れも知らず勉強した。彼はまたこの夜更しの習慣のため身體を痛める様子もなかつた。徹夜の爲に翌日疲勞する氣配も見えなかつた。……彼は午前中に起きることは稀で、大概それよりも遅く起きた。」

しかし一定した規則の支配を缺くといふ意味で時の分配が如何程不規則であるにせよ、單なる習慣作用によつていつかはそこに或る規則が現れるものです。甚だしく朝寢をする人々は眞逆規則に

従つてそれをする譯ではない。多くの者は規則に従つて早起きをする、また早起きはすべきものと人から聞かされ、それを信じ、早起きの徳を憧れながら、それを實行し得ない人々も多くある。朝寢をする者は悉く——この點において——叛逆者であり罪人であり、そしてソロモン以降あらゆる賢人は執拗に聲を合せて、早起きの道德的に愛すべきこと、朝寢は人を腐敗に導くことを言ひ、そのため何人も落着かない罪の意識が非常な冷酷さか何れかを持たない限り八時以後に起き出でることは出来ない程であります。しかし朝寢をする者は、何等規則に従はないとは云ひ條（なぜなら見棄てられた罪人は法といふものを認めぬ故に）漸次物事を固定せしめる力を持つた習慣の爲に、朝寢の點において規則的になります。ジュリアン、フエーンすらも、自分の散漫なやり方を悔ひて、「規則正しく仕事をするこの肝要さをひどく眞面目に繰返し述べてゐた」に拘らず、おそらく彼自身が信じてゐたほど不規則ではなかつたでせう。吾々は必ず何等かの習慣を得ます。肝要なのは習慣が規則的な習慣であるといふことよりも、寧ろその「規則的」が長い間には吾々の意圖の成就にとつて最も好都合なものになるやうな「規則的」であるといふことであります。そしてかういふことは決して偶然に起るものではなく、支配的な智慧に従ふ意志の努力の結果であります。

自分の時間の選擇權をもつてゐる者が必ず自分で定めなければならぬ最初の問題は、一日のうちの何時頃を自分の必要な努力に當てようかといふことである。あらゆる精神労働者の一日の生活は一種の藝術的組織がその特徴でなくてはなりません。そこには從屬的な、様々な程度において從屬的な、様々な労働と共に、明白に主要なものとして認められる一つの労働があるべき筈です。ところがこの主要な努力の爲さるべき時間ですが、萬人に適するやう時計によつてこれを一定することは不可能です、しかし想像される限りのあらゆる場合に適用することの出来る廣い規則はこれを求めることが出来ます。その規則といふのは、主要なる仕事はこれを最善の時に爲す、一日中の撰り抜きの時間をもつてこれに當つる、といふことであります。そしてこゝに「一日」といふのは日中といふ意味ではなく、廿四時間全部を言ふのであります。最善の時を最も重要な仕事に與へるといふことには重要な理由があります。心身の状態がよく、周囲の事情が好都合であればあるだけ、爲さるべき労働の心身の組織に與へる影響は僅少で済みます。心身の疲労の最も少い時間や状態において最も困難な（あるひは重要な）仕事をするのが如何なる場合にも最も安全な道であります。

醫者達は異口同音に夜更に仕事をするよりも朝早く仕事をする方がよいと言ひます。そしてもし

もこの問題が他の様々な考察によつて複雑にされないならば、吾々は彼等の單純な理論に従ふ方が結構だといふことは疑を容れません。ゲーテは、能力が睡眠によつて蘇生らされ、刺激によつてまた昂奮させられない朝のうちに筆を取りました。僕はこれと同じ計畫を追ふて、それが健康にも制作にも均しく好都合なことを見出してゐる優れた現存作家の名前を擧げようと思へば幾つか擧げることが出来ます。彼等の從ふ規則は午食後は決して筆を取らず、その時間は自由に研究と社交とに費すことで、この研究と社交とは二つながら作家にとつて絶対に必要であります。この遣り方によれば、朝食と午食との間の時間が一番よい時間なのでせう。多くの場合にこれが事實であります。健康な人は、茶や珈琲以上に重い刺激物のない軽い早朝の朝飯を取つた後は、健康な愉快な思考のため此上なく好都合な生き生きとした状態に自分自身を見出します。この朝飯の前に冷水摩擦と少しばかりの運動とをやれば、頭腦は一層の明快を加へませう。新鮮、明朝、穩かな喜び、これ等の感情は何時間ものあひだ續き、その間精神労働はおそらく活潑に理性的に行はれるでせう。快活な生き生きした氣持で容易に輕快に仕事の出来る人が病的なあるひは邪惡な物を書くといふのは容易なことではありません。

併しながら朝の時間が今言つたやうに結構なものである爲には、當の精神労働者の住居その他周囲の状況が可成りよくなってはなりません。彼は四邊近所の極く静かなところに住んで、郵便脚夫の齋すものについての懸念から出来るだけ自由でなくてはなりません。もしも彼の書齋の窓が騒々しい街に臨んでおるならば、また毎日或る時間になれば必ずその日の面倒な實務が現れるにきまつておるならば、刻々に増す街の喧嘩や眼前に迫つてゐる實務の懸念（たとへそれが殆んど全く無意識なものであつても）は、どれ程神経質でない人の仕事をもこれを掻き亂すに充分でせう、しかも精神労働者にして多少とも神経質でない者は殆んどありません。絶對の安静といふ無上の利益を常に有してゐる人々には朝の仕事は大いに結構ですが、自分の撰擇とは關係なく時々安静を得るに過ぎない者は、その時々が朝であるや否やを論ぜず、安静を得る時々仕事をするがよいと言ひ得る強い理由があります。

初期の「コーンヒル、マガジン」の一つに載つた「仕事」に關する優れた論説（それは確かに精神労働の經驗の豊かな人の筆になつたもので、實際上の智慧と全然因襲的な獨斷論を含まないこと、において著しかつた）のうちに筆者は夜の仕事の利益をあからさまに述べております。「とに角夜

中に仕事が出来らなければ、夜中の一時間は朝の二時間に匹敵します。家内は閑然する、頭腦は明快だ、人の氣を散らす晝間の影響はなくなつてゐる。將に着手しようとしてゐること、あるひは將に堪え忍ばなければならぬであらうことを考へて自分の心を掻き亂す必要はない。自分と外界の事件との間に一つの淵の、ほとんど死の深淵のやうなもの、存在することが解つてゐる。明日が来るまで明日の事を考へるに及ばないことが解つてゐる。世界が決して死なせたくないと思ふやうな眞實偉大な思想はほとんど皆靜な星の下で生れたのだ。」

夜の仕事に對する醫學上の不賛成は、その仕事が文筆の仕事である場合、夜間が文筆上の生産にとつて餘りに好都合だといふ事實から生れたのであらうか。今引用した論説の著書は「夜間には吾々は只管より、深き沈黙とより、速かなる神興とに奔流の如く流れ入る。うまく氣が乗れば、すん／＼書き續ける。氣が乗らない時は枕に着くばかりだ。」その通りです。つまり、頭腦は、十二分な外的安静により、一つの問題に努力をまつたく集中することを得て、人間頭顱内の最も迅速な神経物質の破壊によつて養はれながら、ひとりでに働き續け、自ら極めて明快な状態に達するのです。「うまく氣が乗れば、すん／＼書き續ける。」言ひ換へれば、一度よく精神のアルコールランプに點火

すれば、それは精神のアルコールが残つてゐる限り燃え續ける、なぜなら空氣が實に穩かで、何物もそれを吹き消しに来るものは無いからです。吾々はより深き沈黙と「より速かなる神興」とに奔流の如く流れ入ります。』醫者の恐れるのはこの「より速かなる神興」なのです。

この反對論に對して、これに劣らず重要な晝間の仕事に對する反對論があります。それは邪魔が入るといふことは、吾々が特に邪魔の入ることを懼れてゐる時は、神経系統にとつて、斯くかくの損失と損害を與へるといふことです。それ故、二つの危険の間に撰擇が爲されなければならぬ譯で、そしてもしもこの二つの危険が相等しい重さを持つならば、そこには何等の躊躇もあり得ない筈です。なぜなら著作家の著述上の利益は最も安靜な時の方にありますから。著述上の仕事は邪魔の入る懼れのある時よりもその懼れない時の方が常に、よりよく爲され、そして仕事に邪魔の入りぬ時は、腦髓の同じ量の努力も、より優れた著述を産むのみならず、遙かに多くの量を産みます。自分には優れた仕事を多量にやつてゐるといふ自覺はあらゆる労働者にとつて一つの健康の要素であり、なぜならそれによつて心意は快活な習慣を増しますから。

時の配分においては、一時間の四分の一を一つの仕事に、他の四分の一を他の仕事に與へず、

一時に三時間、四時間、乃至五時間を一つ事に與へるやう、なるべく大きい時間を與へることが、大人にとつて良い掟であります。小兒の場合にはこれと反對の規則が必要であります。彼等は吾々に比して遙か容易に一つの問題から他の問題に注意を轉ずることが出来ますが、これと同時に、一時的の無能に導く腦物質の疲勞なしに餘り長いあひだ心を一つ事に集中しておく力がありませぬ。小兒をして一日のうちに幾つかの違つたものを習はせるといふ小學校の習慣は、それ故に、小兒の性質の必要に基いてゐるのですが、大概の大人にとつては、これ程目まぐるしい變化は極めて不便不都合な邪魔物になります。小兒にとつて慰安となるものが、大人にとつては邪魔物になるのです。その理由は頭腦の生理的狀態が二つの場合それぞれ違つてゐるといふことですが、吾々が斯うした事柄について話す時の漠然たる言ひ方で言へば、小兒の考へは皮想的であるゆゑ、午餐の卓上に置いた皿小鉢のやうに迅かに置き換えて不都合でなく、それにひきかへ大人の考へはその性情のすつと深味に根を下してゐるゆゑ、寧ろ庭園の植物に似ておつて、他處に植え換へる時は生氣と美とを二つながら失ひ、そしてその損失は即刻には恢復し難いのであります。大人がその仕事を充分立派に爲し遂げる爲には、現在手にあるその仕事に關して一時自分の心力の全部を充分驅使する

ことが出来るほど可成り長いあひだそれに掛つてゐなくてはなりません。そして或る仕事に關して自分の心力の全部を充分に驅使するといふことは、丁度整調師がピアノの調子を整へるやうに、與へられたる諧音に全精神を合せなければ、それが出来ません。人によつては、丁度ヴァイオリンの調子を合せるやうに、比較的速く心の調子を合せることが出来ますが、この能力は或る程度まで意志の努力を極めて屢々繰返すことによつて得られませう。キユヴァイエは最も著しい程度においてこの能力を持つておりました。彼の傳記者の一人は斯う言つております。「研究が極めて樂々としてゐたこと、一つの題目だけ十五分ぐらゐ宛割り當てながら、全心の力を極めて容易に様々の研究に振り向けたこと、これが彼の心の最も異常な性質の一つであつた。」ウエリントン公も注意力の全部を刻下の問題に、その問題が如何程目まぐるしく變化しようとも、容易に集中し得るといふ習慣（これは公人にとつて無上の價値あるものです）を養ひました。しかしながら異常の力、極めて異常の柔軟性を持つた人々が見たところ何の害も受けずにこれを爲すにせよ、やはりそれは仕事の性質如何にかゝるところ甚だ多いのです。仕事そのものが断片的である故に、時間の断片的な區分と兩立し難くない仕事もあります。例へば、成語集によつて言語を研究する時は、一つ一つの成語そのもの

が極めて小さな事柄ゆゑ、極めて小さな時間のうちにそれが出来ませんが、精密な議論の絲は左程容易に中斷したりまた取りあげたりする譯には参りません。察するところ、キユヴァイエはその同時代者の眼には意の儘に仕事を措き、あるひは續ける力に秀で、おるやう見えたとにせよ、彼もまた恐らく邪魔が入るであらうと思はれる時々には、邪魔が入つても差支えぬ仕事をするやう注意したに相違ない。そして、吾々の時間がどうしても断片的になる時、單に補助的な種類の才能は、この断片的な時間の各々を有利なものにする才能以上に貴重であり得ないが、それにしても時が自由になる者は、時を断片的にでなく立派に持續的に有するとき、最も平靜に、最も慎重な態度で、それ故に全體から見て最も徹底的に、完全に仕事をするには争はれません。自分の前に三四時間空いた時間があるといふ單なる知識が、それ自身、研究においても生産においても、徹底した仕事をするといふことの大きな助けとなります。また、研究なり製作なりが終つた時、その結果として一定の進歩が認められるのは愉快なものです、そして何事にまれ一つの仕事が三四時間に涉らなかつた場合には殆んど進歩といふ程の進歩は認められないものです。

準備が必要な爲に、断片的な時間ではすることの出来ない仕事があります。繪具板に適當な繪具

を配置したり、畫布を調へたり、モデルの姿勢を直したり、適當な一切の準備を終つた上で仕事に取掛るだけの時間がなければ、油繪を始めたところで無益であります。風景の寫生においても、まづ場所の撰擇に行く時間が必要であり、そこに着いた後も材料の按配や日除けの用意などに時を費さなくてはなりません。科學の研究においても、その準備に通常少くとも同じくする骨が折れ、時とすると一層甚だしいことすらあります。實驗とか解剖とかは、準備に時を費し、仕事そのもの、時間は極めて僅かで済むゆゑ、不釣合の感じを與へます。學藝道樂の者が一時科學なり藝術なりに熱中しながら、暫く経てば大概それを打棄て、しまふといふことの理由は、最も多くこゝにあります。

眞の精神生活者が決して自ら進んで服従しようとはせぬ一種の掟があります。すなはち嚴密に時計に服従するといふ掟であります。極めて謹嚴な者は屢々この種の服従を自分自身に課するものです。この種の規則でもつて自分を縛つておる者は、例へば、時計が九時をうつとある書物を取りあけて、昨日印しをしておいた所——それは恐らく或る節の中程かも知れませんが——から読み始めます。それから彼は極めて着實に九時十五分まで読み進み、分針が三時の點を越えた刹那、如何程そ

の條が自分の興味を惹いておらうとも、書物を閉ちます。ウォルター、スコットが自分は日常の習慣においてどこまでも規律的であり得た天才者は一人も知らぬが、さうであり得た馬鹿者は澤山知つてゐるといふ意味のことを述べたのは、この種の善良なる人々のことを言つたのでした。細かく何處までも時計に従ふのはそれ自身の性質上精神的でないことは略易き理であります、なぜなら人の心は時計のやうに一個の器械ではなく、容易く器械のやうに働かせる譯には行きませんから。機關車と線路上の時計とは、機關車が器械ならば時計も器械であるゆゑ、その間に完全な一致があり得ませうが、器械でない人間の精神は時に關して常に或る自由や寛裕を必要とします。「朝は書き、午後は読み、夜は友人に會ふ」とか「一日を研究に費せば、翌日は製作に従事する」とか「一週には仕事をし、次の週には世間を見る」とかさういふ風の極めて廣い規則が最善であります。

前夜翌日の仕事を備忘録に書き込むといふ煩はしい習慣があつて、實務家によつて推奨され、また少なからず彼等の役に立つております。もしもこれが精神勞働者により、彼等の研究に關して、爲されるならば、極めて廣い、伸縮自在な遣り方でもつて爲されなければなりません。決して精密な遣り方をしてはなりません。精神勞働者は細々した事を豫定の量だけ實行するといふことを以て

(精神労働における) 良心の問題としてはなりません。この種の道徳は疝癪や煩はしさの種となり、思想の平静を亂す基となります。

第十一編 實業と自由職業

書簡 一

自分の職業について未だ決するところなき才能あり教養ある若き紳士に

僧職——僧職の福祉と利益——その高き理想——高尚な學問をするに好都合なこと——佛蘭西の僧侶と英吉利の牧師——職業上の見地——公平な考へ方の困難なこと——色眼鏡——嚴正さいふことの缺乏——ある説教からの引用——僧職生活の一つの弱味——精神上の結論の豫備的性質——法律を取扱ふ職業——それが人の精神に満足を與へること——法律家が精神的公平を缺くこと——彼等の職業生活への没頭——或る倫敦法律家の挿話——世上の事件に對する法律家の優れた敏感——醫學——精神生活のよき準備たる醫學研究——社會の精神的進歩と一致する醫學者の社會的地位——將來の教育に及ぼさるべき醫學者の影響——彼等の職業の英雄的方面——陸海

軍人——孤獨の時間を持たぬことの悪影響——邪魔の入ること——キュヴィエの挿話——美術——美術が思想に及ぼす好影響——美術家の思想的閑暇——推理的藝術家——美術のうちに含まるゝ科學

君のやうな素質の人にとつて、精神力の自由な活動を許さない職業はすべて不満足だといふことは、分りきつた話だと思ひます。君は無論一年くらゐの間は甘んじて氣に染まぬ仕事に身體を縛られるだけの決心はするでせうが、それも生活の道さへたてば直様止めて了ふ考へがあつてのことです。最も幸福な生活は自分のうちの最善なものを絶えず働かせ、教育して行くやうな生活です。

君は、一時、僧職に即かうか考へられた、そして僧職は多くの點で極めて幸福に君に適したことでしたらう。がしかし私の考へでは、決してあらゆる點で適しはしなかつたでせう。僧侶には多くの偉いなる福祉や利益があります。それは、その穩かな規則的な訓練によつて、吾々のより、高き性情の多くを教育し發達させます。それはたゞ一事を除くのほか——この一事については後に到つて更に述ぶるところありませう——萬事を嗜してそれに向つて精進すべき一つの高い理想を、吾々の眼前に置きます。それはまた活動と休息とを交々もつともよい工合に與へるところの、公人生活

と私的生活との混合を呈供します。それは多くの點において最も高尚な研究のために最も好都合な生活であります。それは良心を満足させる義務と心の教養のための閑暇とを最も幸福に結び付けます。僧職にある者はその位置が中立の、獨立の位置で、それを保つ道はたゞ本來の職分を守るにあるゆるゑ、社會のあらゆる階級に近附くことが最も容易であります。精神生活の立場から見ると、この自由な生活は佛蘭西の田舎司祭のより、狭苦しいそれに比し、どれほど優れてゐるべきでせう！もしも佛蘭西の田舎僧侶が聖なる生活に達すべき異常な天才を有してゐるならば、彼の全き聖者となる機會は、同時に紳士であり世間人である氣樂な英吉利牧師のそれに比してより、豊かであらうが、しかし精神生活を送るためには彼の境遇は左程有利でない、僕はさう考へるのです。吾が國の牧師の地位は佛蘭西の司祭と俗人との中間にあるやうなもので、彼等の心靈上の仕事の邪魔はまつたくせず、彼等をして俗人の性格のよりよき判者たらしめ、より充分な同情をそれに注がしめます。

しかし、牧師の生活は多くの理由から教養に好都合ではあるが、徹透徹尾さうだといふではありません。一般に牧師の生活には、職業的見地さういふことに就いて極めて重大な問題であるところ

の一つの制限もしくは障害物が存在します。あらゆる自由職業のうち、僧職は人間や議論に對する判断に最も決定的な影響を絶えず絶えず與へるものゝ一つです。僧職にある者にとつては、考へ方において公平無私な態度を得ること、一つの教理に強き實證を與ふるに共に他の教理の無根據を證明しようといふ熱烈な欲求なくして、眞理をそれが現れ来るまゝに受取るこそ、これが極めて困難であります。それ故に吾々は僧職にある者が、一つの階級として、單なる科學的眞理よりも寧ろ信仰の助けとなるものを發見するに熱心であることを見出します。また僧侶たる特性が發達すればするほど、彼等は前以て決定せられてある教理の勝利の爲にその精神力を用ふる傾きがあるのです。時とするとこの傾向は彼等を導いて俗人の行動を色眼鏡をもつて觀察せしめ、嚴正な批判なしに彼等について語らしめることがあります。こゝに僕の言ふ意味の何たるかを説明する一例があります。或るジェスイット派の僧侶が最近倫敦で試みた説教のなかに、次のやうな言説がありました。

「獨逸、佛蘭西、伊太利および英國では、基督教徒の小兒達から基督教々育の福祉を奪ふために、巨大な努力が爲されております。」彼は言を續けて言ふに「ヘロデ王は死んだが、彼の外套は残つておる。私は希ふ、是等の國のヘロデ王の兵士等が、非基督教的な、非加特力的な教育をかりて小

兒達の靈を打碎かむよりは、寧ろ彼等の頑是なきうちに彼等の小さき胸を及もて貫かむことを！」疑ひもなくこれは極めて熱心な眞摯な言ではありますが、しかし決して事實に合した、正しい考へ方ではありません。この説教者の述べた國々の俗人社會には確かに國立小學校から神學を排除しようといふ強い傾向がありますが、それは現代の國家にとつては、如何なる種類の神學教育も他の教派に對して不公平を及ぼす惧れなしに、これを課するこゝが困難だからであります。しかし俗人社會は決して僧侶達がそれらの教理に基いて與へるところの神學教育を小兒達から奪はうとするものではありません。なほ僕は敢て附言しませう、吾々俗人にとつては、小兒達が僧侶によつて指導せられない學校で教育されるよりは寧ろ彼等の胸に刃を加へられた方がよいといふのは、極めて血腥い慾望と見えるのです。「全歐羅巴を通じて力強い俗人的要素がたしかに宗教的要素から分離しつゝある。その理由はこの二つの要素が相共に調和して働くことは非常に困難であり、益々困難になりつゝあるからだ」といふのが精確な眞理です。しかし宗教的要素はたゞ俗人的要素から引き離されるばかりで、破壊されるものではありません。僕の今引用した一節は比較的高い宗教的氣稟を有する者の特性を十二分に説明するものですが、この特性は屢々僧侶と政府とが、是等の事柄におい

て、無事に提携して行くことを困難ならしめるのです。茲には第一に極めて當を得ない言説があり、第二には最も熱烈な感情の爆發があります。しかも、精神生活者の要求するところは最も厳正な事實と最も公平無私とであるのです。俗人の氣質がますます精神的になるにつれて（そしてこれがその運動の方向です）僧侶に頼る習慣はますます遠くなるのであります。

僧職生活は多くの點で精神的な者を牽き附けると共に、一方には優に是等の長所と相殺する程の一つの引け目があります。それは人々に安靜を與へ、もつと活動的な職業のもつ邪魔や不安、また手近の力強い影響から人を保護しますが、しかしそれが精神の自由や良心の満足と一致するのは、僧侶が彼の宗教を細目に涉つて眞實信仰してゐる間に限りです。ところで、吾々の信仰の主たる要目が常に變らないとは無論これを希望してよいけれども、人が二十五歳の時に信仰するものは常に彼がおそらく五十歳の時に信仰するであらうものと同じであるけれども、それにしても、自由討究が教養ある男性の通習となつてゐる時代にあつては、將來の信仰について、特にその細目に關しては、何等か正式の契約を結ぶ前に一應躊躇するの尤もな譯であります。精神的な者はいかなる時も精神的な問題に關するその結論をもつて終極の結論とは見倣さず、常に準備的なものと見倣しま

す。吾々は自分の信仰をもつて、それを一層完全な眞理であると考へますが、今日の信仰を明日がどれ程保持しあるひは斥けるかといふことは明言出来ないであります。併しながら、僧侶の職分を規則正しく行ふといふことは、それによつて信仰が密接に日常行爲の習慣と結び附くために、大いに信仰の持續を助け、その結果として僧侶は、俗人であつた場合にはおそらく失ふであらうやうな若い時分の信仰をも、屢々眞實に、正直に保つことがあります。

法律を取扱ふ職業は、正確といふことの強い愛をもつた批判的能力と刻苦勵精に堪へる強健な力を養ふ豊かな機會を供給しますが、それはまたその上に世間の知識を得るに最も良い學校であります。法律家の中には藝術家がその仕事を愛すると同じ程熱心に法律の仕事を愛する者があり、また心からそれを嫌ふ者もありますが、多くは單に日々の糧の爲に爲さるべき仕事として其を見てゐる様であります。心から法律の仕事に打ち込む法律家は必ず心力の優れた人物で、これはこの仕事の中に精神力に對して満足や喜悅を與へる何物かのあることを證據立てゝおります。併しながら、法律家のことを言ふとき、僕は自分が無知で門外漢であることを感じます、なぜなら法律家の職業はそれに携つたことの無い者には内部の感情が少しも解らない種類のものでありますから。たゞ一つ明か

だと思はれるのは、彼等はその職業の目的が依頼人の要望に副ふにあつて、純粹の眞理の探究にあるのではないゆゑ、心の全精力を特殊な一時の目的の爲に使用する習慣が出来るといふことです。この故に彼等は頭腦が極めて鋭敏になり、人間の性情のうち彼等が常に見慣れてゐる方面（それは最も善き方面ではありません）の鋭い批判者とはなるけれども、僧侶に比してより公平無私であるとは言はれません。時として彼等は何か本職以外の研究を始めて、私心のない氣持でそれに従ひますが、しかしかういふことは稀であります。多忙な法律家は僧職にある者以上に職業生活に没頭する傾向がありますが、これは、法律家の仕事の方がより多く精神の緊張を要するからでありませう。これについて想ひ出すのは僕が嘗て倫敦在住の極めて腕利きな法律家に向つて、彼が繪畫の展覽會を見に行くことがあるかどうか訊ねたことであります。その時彼はチャイの「契約法」コリエの「組合營業法」テイラーの「證據論」クルウの「法學綱領」もしくはスミスの「商法論」を読んだことがあるかといふ反問をもつて僕に答へたのです。當時僕はこれを以て職業上の習慣が人の眼界を狭くする一例と考へました、なぜなら是等の法律書はたゞ法律家のみの爲書かれたものであるのに、繪畫展覽會は一般公衆のためのものだからです。もしも僕の質問がリントンの「色彩論」も

しくはバーネットの「明暗法」を読んだかどうかといふのであつたならば、この人の答へももつと適切に聞えたこととせう。

どういふ者でも少しの間法律家の不慮もつてゐるやうな氣持になる場合が一つあります。將棋に經驗のない者が二人勝負を争つて、各々の背後に腕つ利が一人宛付き添ひ、絶えず助言を與へる場合を想像します。この二人の援助者が法律家で、勝負を争つてゐる當事者が彼等の依頼人でありま

す。かうした場合にはあまり公平無私な氣持はなく、強い刺激が頭を鋭く働かせます。おもふに、法律家は、例へば一世紀の半ばといふやうな限られたる時の人間生活に於て、何が比較的肝要かといふことを知る能力において、屢々哲學者よりも優れて居ります。彼等は瞑想的な性質の者かともすれば忘れ勝な社會習慣の大いなる重要さを特によく知つており、また人をして日常生活において他人との交渉を圓滿に運ばしめる特殊な知能を最高の程度において持つております。この點で彼等は牧師に比べて著しく優れており、また藝術家や科學者に比べても優つております。

醫者の職業は、可成り収入のあるあらゆる職業のうちで、精神生活の發展に最もよく適したものと

です。絶えず科學と接觸し、絶えず自然法の作用に従ひかつこれを觀察してゐるゆゑに、それは自然法の作用についての感じも、自然法の寸毫も誤りなきことに信頼する念とを生み出します。そして前者は人の心に大膽な獨創的な思索に對する準備を與へ、後者は堅實な覺悟と信念とを與へるのです。醫學の教育は哲學的追究のための最もよき準備であります、何となれば、それは哲學的追究に凡そ確知し得べき世界における堅實な基礎を與へますから。是等の學問の評價は社會の精神的進歩を計る精確な尺度です。僧侶が尋常の人間以上のものとして尊崇せられ、醫者が輕んぜられる時は、社會は必ず比較的無知な、野蠻な状態にあります。そして醫學の研究に對して侮蔑をもつのは、吾が國貴族社會の野蠻な感情を示す幾つかの徴候の一つであります。社會の進歩は内外科醫の社會的地位が一步步昇つて行くことに現れ、そしてこの内外科醫の社會的昇進は、西歐羅巴においてすら依然として繼續しております。醫術が一般の教育に力強い影響を及ぼし、それに加はつて自覺ましい働きをするのはおそらく餘り遠くないことでありませう。醫學を學んだことのある小學教師は元氣な活動的な人物を造る爲めの心身兩様の訓練に一種特別の資格があるのだらうといふ意見には、極めて強い理由があります。精神生活の見地から見ても醫學の研究に非常な利益があると

いふのは、それが心的勇氣の養成となるからであります。これは他の職業も同様であります。程度は同じくありません。實驗科學における正確な訓練、危険の不斷の無視、苦痛や死に對する冥想、是等の結合したものは、高尚な研究や困難な発見のための最も立派な準備であります。しかし乍ら、こゝに一つ、田舎に居る醫者は、特に自分の仕事に熱心でない時は、器械的常務の影響を受けて生氣を失ふ懼れが殊に甚しく、容易く時代に遅れて了ふことを言ひ足しておかねばなりません。醫學雜誌を購讀することがこれに對する最善の療法であります。

陸海軍人の生活はあまりに活動的で、またその活動において餘りに多く服従を強ひられるゆゑ、精神労働を望む者には適しません。しかしこの點におけるこの職業の最大の不幸は、孤獨に住する機會がまつたく無く、始終邪魔の入ることです。高い階級の軍人生活は、多くの事柄を自ら決定するといふ偉きな責任や必要のある時、精神力の最も華々しい使役を齎し、男らしい性格を發展させて、精神生活に最も有益な基礎を與へることは疑ひを容れません。それ故科學者は軍事上の經驗を閲したことによつて、自分の力が増大し、その操縦驅使が自在になつたことを見出すことありませう。しかし假小舎や天幕の生活は思考の繼續を許しません。ネイ將軍やマツセナ將軍には

キュヴィエやコントの仕事が不可能であつたであらうことを考へてみる時、この二つの兩立し難いことが明白になります。キュヴィエは埃及遠征に加はることを勧められた時、それが自分の研究にとつて利益のあることが見えてゐるに拘らず、これに従ひませんでした。彼がこの拒絶に與へた理由は、靜かな植物園に居る方が科學の爲により多くのことが出来るといふことでした。彼は嚴密な時の經濟家で、埃及における自分の使命が純粹に科學的なものであるにしても、やはり軍隊に従ふといふそのことから來る時の損失を恐れたのでした。もしも軍人としての生活を勧められたのであつたならば、彼は邪魔の入ることの多いそれをなほ如何ばかり恐れたことであらう！ 軍隊生活の特徴である精神的貧しさの眞の説明となるものは、この邪魔の多いことであつて、生來才能の缺けてゐることではありません。あらゆる自由職業のうちこれかもつとも學問的でありません。

最後に美術の實際的研究について一言申しませう。畫家は往々にして愉快な會話能力と、文學の教養に比して著しく優れた智慧とにおいて驚くべきものがあります。これは彼等の仕事、少くとも或る場合においては、單に藝術上の趣味と經驗とによつて導かれる手と眼との働きによつて爲され、頭腦は思索とか談話とかの爲に残されて自由に活動するからであります。ルーベンスは畫筆を

取つてゐる間書物を讀んで聞かされるのが好きでした。多くの美術家は人々の談話を聞くことを好み、時々その談話に口を入れます。といふのは、美術家は、熱心に仕事をしてゐる時も、事實廣大な智的閑暇を有してゐて、また屢々それによつて利するところあるからです。畫くといふことそれ自身もまた心意の最善の能力に對する立派な訓練であります、たゞし最も天分の高い藝術家は自分の技術について最も少く考へるといふことも有名な事實であるけれども。しかしそれにしても、こゝに多くの優秀な人達を含む或る種の畫家の一團があつて、彼等の制作は智的に進行します。彼等はその制作を一步步々哲學的に理由づけ、手の勞働の進行するにつれて、其の上に絶えざる批判力を振ひます。僕は美術や美術家について比較的よく知つてゐますが、僕の知るところによれば、この種の美術家は通常人が想像しておるよりも數が多く、純粹な神興の結果だと信ぜられるやうな魅力ある畫も、往々にして數學の問題の如くに理性的の苦心を以て練り上げられることがあります。吾々は藝術のうちに大なる科學が、自然の顔貌についての科學が、含まれてゐることを、また畫家や彫刻家の手の技が、これもまた一つの科學であり、而かも困難な科學であるゆゑに、或るデリケートな材料に關する最も深い知識なしには誤らなく進行し得ないことを、忘れ勝てありま

す。美術の制作のうちに含まれた智^{インテリクチュアル}的なものを（無知のために）安く見積るといふのが世間の傾向ですが、しかも過去の美術家達は彼等が美術について思索し、しかも深く思索したこと、充分な實證を残してゐるのであります。美術家は往々にして文學に暗い。しかし文學に暗くして精神^{スピリット}的であることも可能であります。それは丁度書物を多く讀みながら何等獨自の思想を有しない人々の居るのと同じ譯であります。

書簡 二

文藝美術の趣味を有すれども職業を有せざる若き紳士に

世間の認むるはたゞ實蹟のみ——拙い仕事の無用——下手と上手との間には無限の隔りがあること——裕福な者の誤想——チャールズ、リーヴァアからの引用——熟練といふことに對する冷淡、いな輕蔑——熟練に對する道德的輕蔑——この輕蔑は知識の誇から來ること——熟練および職業上の訓練の精神的價值

言ふ方の私にとつても不作法な譯だし、聞かされる君にしても不愉快でせうが、君がこれまで文藝美術において爲した事柄は、それ自身としても價値なく、また君を導いて眞實恒久に悦ばしい物に到達せしめることもありません。私は君が生來才能を持つてゐることを信じますが、もつともどの様な批評家にせよ、才能が未だ適當に指導された仕事によつて發達してゐない時、その程度を測ることは困難であらうけれど、吾々は僅か表面に現れたばかりの力に對しては盲目であり易いものゆゑ、大抵の批評家はおそらくさうした作家にとつて不利な間違ひをすることとせう。君の現在の所作のうち何か有望なものを見出すためには、かの亞米利加の作家グリーンナツハの同情と聰明とを要するでせう。グリーンナツハは「その認識が實蹟のみに限られず、潜在する力にまで及ぶ」と言はれてゐる人です。世間は、しかし、未だ實蹟たるに不足するものはこれを認めません、なぜなら實蹟こそ世間の要求するところで、將來の約束はそれにとつて何の用もありませんから。

世間のこの複雑な判断には報酬の自然の配分があります。君は優れた仕事に對しては總て名聲と金錢との報酬を受けるでせう、また單に良いといふ許りの仕事に對しても、それが世間に入用な、あるひは人用だと想はれるやうな仕事であれば、名聲は與へられずとも、金錢は與へられるでせ

う。しかし拙い仕事に對しては、金錢によつても名聲によつても、また君自身の心の領きによつても、全く酬られるところはありませぬ。

なぜなら吾々は總て拙い仕事の無價値なことを知り、あるひはそれについて容易ならぬ疑惑を有するからです。職業労働の試練を経ない人達の滅多に曉らない事柄は拙い仕事に一人前の仕事との間には廣大な隔りがあること、またこれを越えることの困難であります。「裕福な人達のもつ考へ違ひのなかで、「もしも止むなきに立ち到れば」自分は色々の方法で生計を立てることが出来るといふ考へなどが最も普通なものだ。」とさうチャールス、リーヴァアは「ブラムレイ家の人々」のなかで言つております。「二つ三つ或ひはそれ以上修得し得た學藝があり、そしてそれ等を以て自分は充分に生計を支へることが出来ると思像しない人間は殆んど居らぬ。そして彼は、是等の天分を現してみせる時自分がいつも友人仲間の喝采を博することを考へて、もしも自分が技倆を振へば、是等の學藝を職業として世に立つてる者は、忽ち自分の光彩の爲に壓倒せられて、全然世間から忘却されて了ふであらうと思像し、ある寛大な嫌惡といふ風なものを感ずる。オーグスタス、ブラムレイは確かに自惚の強い虚つぼな人間ではなかつた、がそれにも拘らず彼は屢々血氣盛んな時

分に、生計を立てて行くくらゐのことは自分にはいとも容易いことだと思像したのであつた。彼はちよつと音楽が出来た。彼は愉快な唱ひ手であつた。彼は繪も少し描けた。彼は三四の外國語について多少の知識があつた。彼は宗教や政治や文學上の問題について、世間で所謂「よく物を識つてゐる」といふ種類の生半可な知識があつた。しかし退つ引ならぬ必要に迫られたことが無いゆゑ、彼は生計を立てるといふ目的のためには彼のお抱への靴直しの方が主人を凌駕するここを曉らなかつた。世間は生嚙りの人間を必要としない、そして靴の修繕は希臘の草鞋を研究した最も聰明な好事家を煩すよりは、寧ろ本職の靴直しの無器用な手を俟つのである。」

チャールス、リーヴァアが實にうまく指摘したこの妄想は幾分、現在のやうな（あまり満足でない）發達の階段にある英人の心の一つの癖に基いております。そしてこの癖を指摘するのは決して私が最初でなく、あの著名なる美術家ポインタア氏が既にそれをしておるのです。そして私の考へではこの癖は極めて大きな勢力のうちに、おそらく他の何れよりも大きな勢力——君がそこに生れかつ教育せられたあの裕福な英吉利中流階級——のうちに見出されるのです。それはあらゆる種類の熱練に對する一種冷淡な態度であつて、熱練に對して注意、認識、讚美が要求せられる時、實際的

の侮蔑からあまり遠くない何物かに變じます。この感情の源はおそらく富に對する無暗な尊敬のうちに見出されませう。富と（對照の何たるやを問はず）極めて高い個人的熟練とは或る意味で相諷抗するもの、もしくは兩立し難きものです。眞の熟練を有する人々はほとんど常に彼等の熟練によつて生活の資を得る人々です。熟練家についての中流階級資本家の感情は次のやうなものだと言つて差支へありますまい、曰く「さうだ。あの男は實に良い技倆をもつてゐる。またさうなくちやならない——それがあの男の商賣だもの。何しろそれで飯を食つてゐるんだからね。」これは吾々を熟練讚美の重荷から免れしむるため主張される説で、そこには駭くべき自然の天分や人間といふ生物のもつ様々な可能性の證據である人間的努力の實蹟に對する何等眞面目な興味をも見ることが出来ません。人によつてはこの熟練に對する冷淡が一層烈しくて、公然と發表はされぬにしても極めて眞實な、一種の輕蔑とまで成ります。この輕蔑には道德上の問題があります。熟練家は常に天授の満足や喜悅——人間が神から與へられた最も純粹な、最も神聖な快樂——困難な修業時代の後に來る勞働への勵まし、報酬、最善の報酬——をもつて自分の熟練を楽しみます。然るにこゝにあらゆる無邪氣な快樂を憎むところの酸っぱい、苦い精神があつて、熟練の喜びをまつたくその人の虛榮心

として輕蔑するのです。

今一つ知識の誇りから來る熟練の侮蔑があります。何事かに熟練する爲には、實地に當つての修練が可成りに必要で、そしてそれは單なる知識の獲得よりも一層多くの時間を貪り、そのため非常の熟練に達する者は博學の士たり得ない惧れがあります。熟練と博學を兼ね具へた人々の例もあります。亞米利加の彫刻家グリーンナツハと英吉利の畫家ダイスとは、兩人共それ／＼の技藝の熟練において秀ずると同時に、それ以外の知識學問においても秀で、おりました。しかし此の結合は極めて稀であります。それ故熟練を所有するといふことが一般的知識の缺けてゐる證據であるかの如くに見做さるゝに到つたのです。

しかし事實は斯うです。専門家の熟練は實地の修練によつて試され、完成された知識で、それ故に大いなる精神的價值があるのです。本職をもつた生活の獨りよがりな、世間と没交渉な個人におけるは、なほ實際の戰爭の軍國におけるが如くです。それはあらゆる缺點を明るみに持ち出し、吾々にとつて眞實必用なものを明かにします。でそれ故に君が無責任な獨善生活を送つて、君の修得したものを職業生活の様々なる必要によつて試してみないのは、私にとつて極めて遺憾なことに思は

れるのです。職業生活が供給するところの、そして自分一個の決心では到底その代りにならないところの訓練が、君の進歩發達にとつて缺けてゐる總てありませう。

書簡 三

文學を職業としてそれに身を委ねようとしてゐる若い紳士に

バイロンは詩歌が職業と見做さるゝを厭がつたこと——ビュツフォンが博物學者と呼ばるゝに堪へなかつたこと——キュヴィエの希臘語學者と呼ばるゝを欲せざりしこと——フアラデーの生活は職業的でなかつたこと——精神生活は往々それと無關係の職業によつて保護されること——職業としての仕事は平凡な實務がよきこと——「書物の變化」についてのミシュレの説——文學を職業とする時は餘りに迅速な制作が必要なこと——報酬が最善の努力に伴はぬこと——ジャーナリズムと雑誌の寄稿——姉妹藝術による説明——寡作が作家の最上の特權

或る評論記者がワーツワースについて、彼はこの「職業」にある者のうち首位に坐すると言つた

時、バイロンが機嫌を損ねたことを君は記憶しておられますか？ バイロンの立腹は全然ワーツワースに對する嫉妬に基いたのではなく——それも多少あつたでせうが——彼自身「職業」を有するといふことの貴族的嫌惡に基いたのでもなかつた——もつともこの感情も多少手傳つてゐたかも知れないけれど。それは精神生活の尊嚴さの正當な認識に基いてゐたのでした。ビュツフォンは「博物學者」と呼ばるゝに堪へず、キュヴィエも同じ様に希臘語學者の稱號を嫌惡しました。つまりそれは職業的に聞えるからです。キュヴィエは斯う言ひました——自分の希臘語の知識は全學藝院のそれよりも多いが、しかし自分はガイルのやうに希臘語學者ではない、なぜなら自分は希臘語で飯を食つては居ないから、と。

偕て、もしもこの感情が自分は毎日のパンを稼がなければならぬ身の上だと人から想像されることの嫌惡から生じてゐるとすれば、それは、それを發表した者が誰であるにせよ、侮蔑に値するほど野蠻な感情であります。手の業であれ精神の技であれ、正直な仕事によつて毎日の糧を稼ぎ出すといふことほど人間にとつて尙ぶべきはありません、がしかもなほ私は、バイロンやビュツフォンやキュヴィエと共に、世界の精神教養の大なる具は、普通の意味で、決して職業とすべきで

ないと感ずるのです。バイロンは言ひました、詩は、彼の了解するところでは、一つの藝術、人間の心の一つの屬性であつて、「職業」といふ言葉の意味するやうなものではない、こ。確かに如何なる種類のものたるを問はず、最高の精神労働についてはすべて同じことが言へます。フアラデーの生活は普通世間で言ふ意味の職業生活とはとても見倣す譯に行きません。チンダルの言によれば、もしもフアラデーが進んでその分析化學の才能を賣り物に供すれば、彼は十五萬磅の資産を造ることが出来た相であります。ところがさうすれば彼の生活は職業生活になりました、そして彼が撰んだ生活は（科學にまつて幸福なことに）職業生活ではなくて精神生活であつたのです。職業生活と精神生活との間に存する區別は私の心の中で完全に明かになつております、でそれ故に私はそれを明瞭に言ひ現はすことが出来る筈です。こゝにそれを試みてみませう。

職業——純粹な單純な意味の職業——の目的は知識や才能を金錢上の利益に振りかへることです。一方、非職業的な氣持で仕事をする教養ある人々もしくは天才者の目的は知識を増加すること、或ひはそれを一層正確なものにすること、或ひは單に高い能力が自由な活動を要求するまゝにそれを與へることです。この區別は實に痛いほど瞭りしてゐて、精神生活を望む人々がかもしも多く

の私有財産を持たない時は大概、高い精神労働とは隔りのある職業を撰んで、後者の完全な獨立を計る程です。スマイルス氏は、その貴重な「品性論」のなかに、文學上もしくは科學上の活動とは別に様々な種類の職業に従つた卓越せる精神生活者の名前を列挙してあります、そして氏の掲げてゐるギフォード氏の言葉は大層私の現在の目的にかなふのです——「隔週評論の編輯者ギフォードは生活の爲に筆を執る苦しさをよく知つてゐる人で、或る時かういふことを言つた。「終日の實務の後で得られた執筆の一時間は、文學を職業として働く者の終日の労働以上に値します。前者の場合には、精神が牡鹿の水際に降りて来るやうに喜んで氣保養にやつて來ますが、後者の場合には、それは饑渴や必要の犬に追ひ掛けられて、疲れ喘ぎながら怒めな歩を運ぶのです」と。「同じやうにコールリツヂも「日常生活その他の懸念の混らない、そして變化や氣保養として喜びをもつて待ち望まれる純粹な閑暇の三時間は、眞に美しい懇篤な文學品を生み出す爲には、厭々筆を取る一週間に勝る」と言つております。コールリツヂの職業觀は「それは健康や元氣や頭腦の努力の世間並の量さへあれば忠實に果すことが出来るやうな、極めて器械的な規則立つた仕事でなくてはならぬ」といふのです。良い職業上の仕事を輕蔑する積は聊かもなしに、私は斯う言ふことが出来ます、眞實

職業上の仕事であるためには、常に思ひの儘に出来るやうな、それ故最高の精神的光明の稀な閃めきを要せず、世間並な人間の智力でもつて充分事足りるやうな、さうした仕事でなくてはならない。職業上の仕事は常に、知識と熟練とを要するけれども何等天才の努力を要しない平凡な實務上の仕事でなくてはなりません。例へば、醫學においては、藥の處方を書いたり手足を切斷したりするのは職業上の仕事で、神經組織や血液の循環を發見するのは職業上の仕事ではありません。

もしも文學の報酬が豊かで、これを許すならば、賢明な文學者はおそらく、制作でなく研究をもつて、自分の職業と見做すことでせう。その時は、彼は一日にまづ六時間規則正しく勉強し、何か言ふことが出来て、眞實それを發表したくなつた時に筆を取るでせう。彼の書物が世に出た時は、それはもう適當に孵化し得るだけの充分の時間を経た後で、おそらくその中に自然の生命を有しておることとせう。ミシュレがその作品の一つについて次の様なことを言ひました。「この作はとに角眞の生物のやうにしてこの世に生れて來たといふ特徴を持つてゐる。これは穩かな巢籠りの熱によつて生み出されたものだ。」と。書物の生れ出る自然の状態について、これだけの簡短な言葉で、これ以上正確に記述することは、不可能でありませう。書物は常に穩かな巢籠りの熱によつて孵化され

なければなりません。

しかし文學をもつて君の職業とする時は、君は到底かうした仕事のやり方は許されませぬ。文筆の士は多少とも世間を見ることを必要とします。彼等は到底隠者ではあり得ません。そして世間を見る爲には絶えず金が要つて、それが一年の終りには一人前の收入の全部に匹敵します。教養や洗練のある人々は、醇雅の趣きにおいて墮落し世間の知識に遅れることなくしては、極貧の人々のやうな生活は實際出来ません。彼等が結婚して、家族が出来ると、彼等は家族の者をして自分と違つた生活をさせることが出来ません。でそれ故英吉利で職業によつて生活する階級は始終可成りの費用に堪へねばならず、そしてこの費用は、文筆からの利得をもつてこれに宛てなければならぬ。可成りの重荷となります。その結果、大事を取つて書かれなければならぬ書物が手早く、役に立つであらう準備の労働も出来るだけ省いて、書かれることになりません。これはミシュレの所謂穩かな巢籠りとは大層違つたものであります。ゴールドスマスが賣文の仕事について、出来るだけ多く書くことを利益とする著作家と出来るだけ少く仕拂ふことを利益とする書肆と、これほど良趣味を害ふ結合を想像することは困難だ、と斯う申しました。著作家の境遇がゴールドスマスの時代

以来余程よくなつてゐるときは争はれませんが、それにしても廣汎な準備的研究を必要とする最も注意深い、磨きのかゝつた著述をするといふ事が、職業的著作家の大いなる危険を冒さずしては耽ることの出来ない一つの贅澤だといふ事實は、依然として存在します。言ふまでもなく、時偶慎重な著作がそれに費された時間の報酬を齎することもありません。しかしさうした著作をする人は通常、収入の全部をインクとペンとからひき出すところの専門の文筆労働者ではなくて、私有財産によつて獨立してゐる人達、あるひは何か他の職業によつて、著作家として、獨立してゐる人達なので、そして、例外として、賣文屋が困難な研究の精緻な基礎の上に立つた、極めて磨きのかゝつた、緊縮した作を物するときは、その作は嚴密な意味での職業上の仕事でなく、彼の爲に日毎の糧を得る忙がしいジャーナリズムもしくは雑誌の寄稿とは違つた「愛の」労働であります。この種の場合には最善の仕事は職業上の常務の一部として爲されるのでないこと、また作家は眞の文學をつくる爲の時間を同じくする得ることが出来れば、何か他の職業によつて日毎の糧を得ても、差支へないことは明かであります。

私が職業としての著作に見出す缺點は、その報酬が作家の最善の努力に値しないことです。私は

だらけ切つた、不注意な作の利益を力説する積はありません、たゞ高い程度の良心が、特に研究や探究におけるそれが、職業的作家の財布にとつて眼の當り有害であることを言ひたいのです。例へば、彼がある書物の批評を引き受け、それを書き終へたならば三磅十志の報酬を受ける筈だと想像します。もしも以前からの知識の蒐積が偶々この仕事に充分間に合ふならば、批評文は速かに書かれて、その日の仕事は利得の多い仕事であつたことになりませう。しかし、それにひきかへ、その書物の取扱つてゐる問題について權威ある書物に相談し、骨の折れる探究に従ふ必要があるならば、その時彼は文學的完璧と家族に對する義務との間に板挟みの窮境に陥る譯です。彼は三磅十志の金の爲に一つの問題の調べに一週間を費すことは出来ません。それよりも、その問題に通曉してゐる五六人の熱心家以外あらゆる人の目から自分の無知無識を有効に隠してくれるやうな二三の句を綴り合はせる方が遙かに有効ではありませんか？文學の職業的追究が贖面に研究心の衰へを持ち來すこゝは不思議ですが、しかしそれに違ひありません。賣文の業をしながら研究を廢しない人もあつて、さういふ人は事實多くの讚美に値します、それ程に他の道の誘惑が常に手強く彼の身を壓迫するのです。セント・ブーヴは眞の學徒で、文學の爲に文學を愛し、職業的文士に稀な眞摯と

勤勉とをもつてその論説の準備に身を入れました。しかし彼は僅かながら財産があり、その上獨身者の穩かな、つまましい生活をしてゐたのですから、殆んど賣文業者と言ふことは出来ません。

最も高い種類の文學は最も異例的な場合を除くのほか職業となり得ないが、しかし熟練した作家は、もしも望むならば、職業的に文筆を用ひてもよい。これが動かせない事實らしく思はれます。その日その日の談話を印刷にしたやうなものを作るには、世間並の才能、普通の教育ある人々の氣格、天性があれば足りります。さうした産物がジャーナリズムであり、雑誌の寄稿であります。是等について少し許り言はせて頂きます。

最も高い種類のジャーナリズムは英國で極めてよく行はれます。それを爲すは往々高い教育のある人か、生れ付き豊富な天分のある人か、それとも是等を兼ね具へた人であります。ジャーナリズムに携はることは、容易に筆を取つて書き下す習慣を、材料を直ぐ物にする熟練を、一二の點を有効に際立たせる力を、養ふ上において作家にまつて役に立ちます。これ等の習慣や力をもつて恒久な性質の文學においても屢々貴重なものであります。一方、其の危険は姉妹藝術たる繪畫に關する例によつて説明することが出来ませう。私がある英吉利の風景畫家の畫室に居つた時、田舎の一美術

家から、私の友人の作と一緒に展覽會に送られる筈の繪が數枚屈きました。それ等は總て實に綺麗な、實に惻巧な——實際、その惻巧な點がほとんど厭になる程惻巧な——繪で、それ等だけ眺めてゐる限り、實に美しくて眼も眩むほどでした。ところが飽くまでも注意の行届いた、熱心な作の傍におかれたのを見るに、それ等が急いで畫きあげられたもので、直き買手に飽きられて了ふだらうといふことが、驚くばかり明かになるのです。かうした繪が繪畫界のジャーナリズムなのです。そして私の友人の語るところによれば、畫家が一度かういふ風に急いで作をする習慣が附けば、その後、減多により、良き習慣が得られないといふことでした。

即刻の利得の爲にジャーナリズムに従ふ職業的作家は、もつと磨きがかつて緊縮してゐなければならぬ筈の文學においても散漫冗逸の習慣を保存し勝ちであります。それ故に、ジャーナリズムは敏活決斷のよき師匠であるに拘らず、人は往々それによつて完全な仕上げをなす力を失ひ、より高い文學を作ることが出来なくなり、大望のある作家は、新聞雜誌の寄稿によつて自分を稀薄にするよりも「僅かに書いて、常に最善を盡すこと」をよしとします。およそ作家の望み得る最大の特權の一つは「あまり書かないでも濟む」といふことであり、そしてこの特權は、テニソ

ンのそののやうな稀な場合を除くほか、職業的作家の不可能とするところでは、テニソンの注意深い仕上げは、藝術家の氣六ヶ敷い神経や趣味を満足させる許りでなく、職業的な意味でも極めて慎重なものであります。

書簡 四

成功せる精力家の綿工場主に

比較的低い階段にあつては是非とも相對立せざるを得ぬ二階級——靈的勢力と世俗的勢力——
 兩者の作用が同一人によつて容易に行はれぬこと——フンボルト、フアラデー、リヴィングストン——
 時についての困難——個人の精力の限界——階級間の嫉視——この嫉視の存在してはならぬこと——産業の發達を基礎とする數種の科學——文明高き社會において絕對に必要な知識階級の働き——それが數と影響とにおいて産業階級と相並んで成長すること

この前あなたの立派な新築の應接間で、夜更けて客が去り音楽が止んだ後、あなたとの間に取交

しました談話は、私の心に私共はお互ひに完全な了解に達しなかつたといふ印象を残しました。これは大部分談話によつては何一つ正確に言ひ現はすことが出来ないといふ私の不幸な性質に基いておられます。筆で現はす時は自分の考へのなかゝら徐々撰擇するこゝが出来ぬゆゑ、絶えず筆をとる習慣は往々敏活な談話の爲に極めて不都合です。そこで御免を蒙つて、今度は私に勝手のよいやう、筆を手にして、あの時ご一緒に歩いた土地を、もう一度歩いてみたく思ひます。

私共——あなたと私と——は二つの階級を、比較的低い階段にあつては是非とも相對立しなければ濟まない階級を、代表しております。しかし是等の階級のより優れた人々はお互ひに何等敵意を感じてはならない筈です、なぜなら双方とも等しくこの世のために、なくてはならぬものですから。吾をば、まことに、最も近代の形式における靈的勢力と世俗的勢力とであります。産業の首長と文筆の人とが今日相互に對し人類に對して有する關係は、中世の貴族と大僧正とのそれに等しい。吾々は、何れも、正式に與へられた稱號によつて認められず、以前の世間事情の代表者達によつて聊か邪魔物扱ひを受けております。そしてそこには吾々が吾々の自然の権力と見做しておるものを否定する傾向があります。あるひは最近までありました。しかし吾々は吾々の力が抗すべからざるものであ

ることを知り、大自然の力が吾々と共にあることを心の中に信じております。

これは吾々以外の世界との関係であります。しかし吾々の間の関係には明瞭を缺く點がありません。あなたはあなたの方の偉大な世俗的職分を了解しておられる。それは民衆の産業の賢明な指導であり、富の集積分配であります。しかしあなたは知識階級の靈的職分を左程明かに了解しておられず、それについて正當な考へも有しておられません。この了解の缺乏を吾々のある者はあなたの方の俗物根性と呼びます。こゝに知識階級があなたの方のこゝをどう考へてゐるか、また知識階級自身のことをどう考へてゐるか、説明させて頂きます。

私が私共のことを知識階級といひ、あなたの方のこゝを産業階級といふ時、それが尊大自恃の態度に見えることを許して下さい。私の位置は「彼をして吾が下に、あるひは他の博學賢明なる神意の代辯者の下に、來らしめよ」と讀み聞かせ、自分自身を博學賢明と呼ぶところの牧師のそれに似たところがあります。しかし私が知識階級の生活を送るが故に知識階級に屬することは、あなたが二十五萬の富を有せられることの事實である如くに、單なる事實であります。

先づ、私は私共の階級の存在の必要なことを示さうと思ひます。

様々の職業にある人士が往々彼等の職業以外著しい程度の教養に達することもありますが、しかし教養の最高の成果は財産をつくることに時間を取られる人々によつては到底達せられないどころです。人はみなその一日の心力の流れに限りがあります。そしてもしもこれが産業界の統率に費消せられるならば、彼の精神界における可能は、單に他人によつて爲された事柄を認知する以上に多く出づることは出来ません。ところで私共は他人の成就したものを認知する人々に對して或る尊敬をもち、またこの尊敬は正當なものであるにしても、もしも何人もこれ以上のことをしないならば、もしも一人として何等新しい発見をする者がないならば、世界には何等進歩といふものがあり得ないだらうといふことは明かであります。事實もし何人も常に前代の精神的追究の祭壇に捧げられることがなかつたとすれば、他人の爲せる事柄を學ぶのみの人々は、今日もはや何一つ學ぶものが無くなつておるこゝでせう。過去の歴史はこの世が時間と注意との全部を盡く精神的追究に捧げた人々に負ふところの如何に大なるかを證明しております。もしも是等の人々の存在が人類の過古から抹殺されたならば、人類の現在は何れ程違つたものになつて居るこゝでせうか？ 仕事の合間々々に多くの良き仕事をした人々のことが書物になつて出て居りますが、しかし偉大なる精神

界の先驅者は富といふものを、それが彼等自身に影響を及ぼす限り、輕蔑し、彼等の時代の知識を超越した知識のためには一切を喜んで堪え忍び、精神的な仕事に没頭し献身した人々であるといふこの事實は依然として消えないのです。かうした熱情の、それが贏ち得た成果の價值によつて充分是認せられる熱情の、實例は夥しいものです。アレキサンダー・フンボルトがその南米大旅行の資源を得る爲に自分の遺産を買却し、長い生涯の全部を、強壯な身體の力を、靜かに博物學上の知識の進歩のため捧げた時、もしも人の生涯や力や財産が資財を増す爲に巧みに用ふべく與へられてゐるものならば、彼はまことに愚かな行動をした譯であります。しかし世界は彼の決斷によつて利益を與へられました。フアラデイは、その化學上の異常の熟練を心を用ひて投資すれば大きな資産をつくり得たであらう時に、發見のため時間の全部を抛ちました。リヴィングストンは亞弗利加におけるその大事業の遂行のため一切を犠牲にしました。かうした人々の生涯は——そして左程有名でないけれども有益な献身においては是等に似た生涯は少くありません——明かに金儲けといふことゝ兩立しません。負債の無い端正な生活がかうした人々の能力および義務として要求さるべき一切であります。

私は二三主要な實例を取つたのですが、自然の事情からして全く産業界の外に住まなければ持ち前の道において有効に社會のため盡すことの出来ない知識的な人々は可成り大きな階級を爲しております。あの仕事と他の仕事との間には實際兩立し難いものがあります。お察しするところ、あなたは生れ付き人の上の立つやうに出來ておられる故、陸海軍に入れば優れた將軍になられたこととせうが、しかし規則的軍隊生活を送りながら、多くの工場を御自身嚴格に管理されることは到底困難であつたでせう。私共は屢々私共の精神的追究において同じ困難を見出します。私共はあなた方が考へられるやうにいつも左程非實際的ではないのです。しかしどうして時間を見出さうか、二三明瞭な種類の機會を取り逃さないためにはどういふ風にそれを接配しようかといふ困難があるので。吾々の労働の金錢上の結果は無論いとも怒めなものに見えますが、しかし吾々は皆が皆金錢のことにかけて飽くまでも無能者だといふ譯ではないのです。當時の實際的な人々から世間の事に無能だと思はれてゐた希臘の哲人が、その反對の事實を立證するため一年間それに身を委ねて極めて分別に富んだ商賣をやり、多くの富を積んだといふ言ひ傳へがあります。彼がそれを一年のうち

て、同じ頭腦の中なる立派な實際的能力を蔽ひ隠すといふ事實は少くないのであります。

精神的職分と産業的職分とが、それ／＼の最高の發展において、相分れなければならぬといふのは人間一人の精力に限りがあり、一人の人間の生涯には極めて僅かの時があるに過ぎないためです。如何なる人も彼自身のうちにあなたの生涯とフンボルトの生涯とを併せ有することは出来ません、たとへ彼に生來双方の能力があるとしたところからです。然れば、私共により多くの金を儲けないといふ自由を許して頂きたい。そして一と度これが許された上は、私共の精神的優秀を單なる自然の事實として眺めるやうにして頂きたい、丁度私共があなた方の金銭的優秀をそのやうに眺めるやうに。

私共が精神的にあなた及びあなた方の階級よりも優れておることを斯く淡白卒直に言明する時、私は、丁度あなたがあなたの富を主張しあるひはその力を振はれる時と同じく、何等の自恃や虚榮の心をもつて非難さるべきではありません。事實があらひの儘の事實としてそこにあるのです。私共に教養があるのは私共が教養の値として二十年三十年の労働を仕拂ふたからで、あなた方が生涯かけての根づよい、聰明な努力の報酬として大工場や土地を所有されるのと變りはありません。

何故私共の間に偏狭な嫉視がなくてはならないのでせう、何故一方が他の一方を侮蔑しなければならぬのでせう？ 各々が定められたる仕事を果し、各々が主の興へたまへる才能に果を結ばしめてゐるのではありませんか！

しかも或る嫉視が存在します、あなたと私との間に個人的に存在しないとしても、少くとも私共の階級の間には存在します。富なくして教養ある者は教養なくして富を有する者の力や特權を嫉視します。また一方では、商業上の仕事のため多く時間を奪はれて、精神方面の力を正當に伸すだけの余裕をもたない人々は、屢々教養ある人の蔑視を痛切に感じ、嫉妬の念からして、教養それ自身の價値を小さく見る傾きがあります。彼等は双方ともこの種の詰らぬ、理由のない感情に耽る限り間違つております。この兩階級の存在は進歩せる文明にとつて必要であります。物質上の富を集散する科學——あなた御自身がその大なる實行者の一人です——は國民の物質的繁榮の基礎であります、そしてこの繁榮が大多数の者に對して充分確保された時、はじめて、藝術や科學が完き自由をもつて、彼等自身の恒久性の靜かな信仰をもつて、發達することが出来ます。近代國家における物質的幸福の進歩は精神的追求の進歩の極めて直接の導きとなるゆえ(富をつくるもの自身がこ

の結果に無頓着である時です。それは讀書や思考の余裕をもつた大衆の支持を必要とする知識階級の爲に、常に祝賀すべき事柄でなくてはなりません。私共の階級が喜んで養ひ育てるところの藝術科學があなた方の精力が招來する産業の發展を基礎として立つてゐるといふ事實はこれを示すに難くありません。化學者の場合を想像してみますと、彼の實驗の諸材料は産業階級によつて彼の手元まで供給されます。彼等の記録は同じく産業階級によつて製造せられた紙の上に保存されます。また認識や賞讃によつて彼に勇氣を與へる公衆は、通常同じ人類の有益な僕達の勞働によつて支持されてゐる大都市のうちに見出されるのです。言ふまでもなく、今日の世にあつては、純粹に田園的な、農人の社會も偉大な化學者を生ずることがありませう、農耕の國に生れた科學的天才者も今日は遠方にある商工業の中心地から書物や材料を得ることが出来ます。しかし彼の仕事が他人の産業生活に基いてゐることは、やはり變りがありません。商工業の社會から眞實孤立した農牧の社會は嘗て化學者を生んだことがありません。そしてこの化學といふ學問が吾々の精神生活に對してすらどれ程重要な務めを爲したか、それを考へて御覽なさい！ 他の幾つかの科學はそれによつて非常に力附けられたり、全然革新されたりしました、そしてあの驚くべき寫眞術の自然および美術の爲

になした功蹟は印刷が文學に及ぼした効用と同じく、寫眞術のお蔭で研究の爲の信頼すべき材料が何人の手にも入ることになつたのです。書物の材料がすべて益々廉價になるため、文學それ自身が現代の産業的進歩によつて利益を得ております。私はあなたもまた多くの綿類を製造することによつて紙を廉價ならしめてゐることを考へて喜ばしく思ふのであります。

是等はすべて私共があなたを嫉視してはならないといふ理由です。で次にはあなたの方から私共に對して嫉妬を感ずべき理由のない譯を二三述べさせて頂きます。

私共が明日仕事を止めて——といふのは私共の現在やつてゐる仕事を止めて、といふのです。皆な炭坑夫や工場勞働者になり、そして誰も私共の代りになる者がないと想像します。それとも、あなた方は今日この世にもう十二分の文學があると考へておられるかも知れぬゆゑ、寧ろ、以前の頃の如く人類の文學、科學、美術の勞働が残らず唐突に中止されたか、かう想像することにしませうか。注意して下さい、私は單に英吉利のこまばかりを言つてゐるのではなく、全人類のこまを言つてゐるのです、なぜならもしも精神勞働が佛蘭西、獨逸もしくは日本でも行はれるならば、それは綿類や外國の穀類のやうに輸入されたこととせうから。併して、私は躊躇なくかう言ふことが出

來ます、一八〇〇年一月一日以前に英吉利に文學や科學が夥しくあつたとしても、もしも知識階級がその日に考へたり觀察したりすること、またその思考や觀察を記録に残すことを廢めたとしたならば、この國民の現在は極めて混沌たる状態になつてゐたこととせう、進歩的國民の生活は過去の考へ方にのみ基いて長く進んで行くことは出来ない。その思想家はすべて死んだ人間であつてはならず、國家の進みに伴ふ生きた人間でなくてはならない。經驗の教訓を明かにするのは彼等でありませう。將來あらゆる安全なる行動の基たるべき信頼に値する一般的法則を見出すのは彼等でありませう。總括的な正確な言葉で人間活動の成功及び失敗を絶えず記録することによつて、あらゆる方面のそれに裁決を與へるのは彼等でありませう。實務に携る人々が僅かの努力と時間の最少可能な費えとをもつて様々の知識に近附くことが出来るのも彼等の偉いなる熱心な労働によります。知識階級は數においてまた影響において、物質的な生産をする人々の數や影響と共に成長します。さうして自然哲學者、現代および過去の歴史を書く者、科學上の發見者、これ等は現代英吉利のやうな社會の生活にとつて嚴密な意味で必要であるばかりでなく、詩人、小説家、藝術家すらもその生活の完かんが爲に必要であります。しかしこれは、あるひは、あなたのあまり瞭り認められないところ、

(1) 英國第一の公立學校イートン校の卒業生をいふ
もしくはあまり喜んで承認されないとこゝろであります。

書翰 五

木綿紡績工にならうと考へてゐる若いイートニアンに

商工業に對する馬鹿けた偏見——大多數の實業に與へられた輕侮の烙印——封建時代の因襲
——職業間の差別——綿業に入れるイートニアンの實例——この實例の觀察——綿業は精力使用の爲の立派な戰場——精神教養の爲には感服出來ず——實務的能力の發達——教養が閑暇なくしては不可能なること——商業によつて財産を築ける人々

商業に對する馬鹿けた古い偏見が確かに衰へつゝあるといふことの色々な徴候を見るのは愉快です。併し自由職業に携はる人々や貴族の社會には依然商業に對する侮蔑が大分残つてゐて、また骨董品となるほどに珍稀でなく、吾々は舊い迷信の遺物としてそれを研究する機會に屢々遭遇するの

です。しかし時代が過ぎ人々が一層合理的になるにつれて、それは産業の中心地より發する光の届かない遠方に、古い田舎邸や地方の牧師館など現代から忘れられた隅々に引つ込むことでせう。この國の多忙な階級の人々が従事する數百の職業のうち、僅か三つの職業が或る不面目な烙印を全然免れ、生れの高い青年が何等門地の誇りを犠牲にすることなくそれに従ふことが出来るといふのは、まことに驚くべき事實であり、また英人の特徴たる目上の者に對する尊敬や服従のほとんど悲愴な精神を證據立てる事實でもありません。この國民の大多數を占めてゐる活動的な民衆、その勤勉と智慧によつて現在の英吉利をつくり上げた人々が、この階級の掟のやうな無禮な掟、勤勉を尙ばずして怠惰を尙び、最も有益な重要な商工業に侮蔑的な烙印を捺すやうな理不盡な習慣に、これまで喜んで服従して来たといふのは、まことに驚くべき奇蹟であります。地主、軍人、僧侶、この三つの者があらゆる侮蔑、貶謫の痕から純潔であつた、この三つの者のみが絶對に、世俗から離れて純潔であつた。彼等の次は辯護士と醫師とであつたが、彼等には聊か大地の香が附せられてゐた。で若き貴族は戰場に出で或ひは説教壇に登ることは敢てしたが、法廷に出で、辯じあるひは醫藥を盛ることはこれを欲しなかつた。さうして是等の次により卑き自由職業や無數の商工業が位し

て、彼等はすべてより深き深き墮落貶謫の烙印を捺されてゐたのです。

精神的見地から見れば、かうした偏見は民衆の輿論が野蠻の境地より脱してゐない社會狀態を暗示します。それは土地を有し、またその土地の上に農奴や撰擧民を有する封建時代の主長の力を了解しております。それは刀劍の使用法を知り、また僧侶の威嚇を恐れます。これ以上にそれは餘り知るところがありません、そしてそれは自分の了解しないものを輕蔑します。それは科學に、産業に、藝術について無知無識であります。それは是等のものを自分の紳士觀以下にある卑屈な仕事として輕蔑します。これが封建時代の佛を留めてゐる國々の因襲であります。しかし英國の輿論が——その偉大性の多くを、またはほとんどその富の全部を商業上の企てに負うてゐる國の輿論が——商業に對して侮蔑的であるといふことを考へてみる時、吾々は、あらゆる吾々の哲學に拘らず、一驚を禁じ得ないのであります。

序でに、私はこの偏見の極めて奇妙な形式について一言しませう。商賣は輕蔑されますが、しかも或る商賣と他の商賣との間には差別がつけられるのです。酒を賣る者は無花果や葡萄を賣る者よりも紳士らしく見做されます、そして世上のことを氣を附けて觀察すれば毛織物の製造者は木綿

の製造者よりもいくらか上品なやうに思はれてゐることが分るでせう。かうした區別は、滅多に理性に基いてゐることはありません、なぜなら商業上の仕事は、それが販賣する材料は何であれ、心理的には、概してほとんど同じ種類の仕事ですから。君は君を導いて木綿紡績の業務を撰ばしめた君の心の力や堅實な覺悟や偏見の超越のゆゑに、衷心祝賀せられてよいのです。木綿紡績の業は結構な仕事です、そしてそれ自ら、あらゆる點において、吾が國の貴族が常住非難なしにやつてゐる穀物や家畜の販賣と同じく立派なものです。しかしこれでもう私は一般に商業といふものを、また綿布商といふ特殊の仕事を、侮蔑する愚かな偏見に加擔することを拒絶した譯ゆゑ、次には綿布商が人の心に及ぼす影響について數言を附加することを許して貰ひませう。

少し前或る新聞にイートン校の一卒業生の興味ある、そして確かに本物らしい手紙が掲載されましたが、筆者はそれ以前ある木綿工場に入つて、その實務に身を委ね、備ひ主の信用を得て、司配人として一年四百磅の収入を得てゐる人でした。彼は外交官の任命書を空しく待つてゐた後、青春の最も良い時代を無爲に暮すよりはと——もつと懶惰な者ならば大喜でそれをしたのでせうが——實業につく決心をしてその決心を感すべき堅忍をもつて、遂行したのでした。最初誰もこの「洒落

者」の決心を眞面目なものとは思ひませんでした。皆は彼の製造業をほんのむら氣の沙汰と考へ、一度退屈な日常の常務に面接しようものなら立所に止めて了ふだらうと豫期してゐました。ところがこの洒落者は眞面目でした。彼は月曜から土曜まで引つ括めて、朝は六時に紡績車の傍に行き、晩方六時までそこに留つてゐました。これが一年間續いた後、彼の新しい仲間が彼を信じました。

さて、これはすべて精力や、また男らしい努力の報酬として財産を求める最も眞實な獨立心の現れとして、まことに讚美すべき事實ですが、しかし私はこの青年紳士の決心について二三考ふところを述べてみたいと思ひます。この青年紳士のしたことは精神力の自由な運動や養ひを求める精神的な人の行爲とよりは、精力の出口を求める精神的な人の行爲と見えるのです。私は、この比較によつて、この人の自然の性能を詰らないものにして見せる積は更々ありません。——この人の天分は性質において尙ぶべく程度において強健なものです——また彼の撰擇に含まれた智恵を疑ふのではありません。私の意味する一切は、彼が撰擇したものは單純な精力のためには結構な廣い戦場であつても、精神力のための牧野としては哀れむべき荒野であるといふことです。この點において彼が斷念した生涯と彼が撰びとつた職業との間にある相違を少し考へて下さい。大使館書記官と

なれば彼は世界各國の首都に住み、近代各國の言語に精通し、最も多様な最も興味のある社會に接する最善の機會を持つたこととせう。また毎日教養を増すために用ふることの出来る貴重な閑暇を持つたこととせう。もしも精神的な者が、外交官と綿紡績業とのうち一つを撰ぶ必要があつて、綿紡績の方を撰ぶとすれば、それは富の欲求からか、本國の家庭を賞でる爲か、何らかであるでせう。一般に成功の基となる厳格な監督をもつてその身親しく業務に携はる綿布製造業者の生活は、ほとんど何等精神的快樂の餘裕も、精神的な仕事のための精力も餘しません。工場における十時間の後、書齋や研究室に坐して研究することは困難であります。そして精力はそれに堪へるにしても、心は容易く大きな實務上の懸念や責任の重荷を拂ひ退けて、利益を度外におく思考に自己の調子を合せることが出来ません。産業界の主導者達は屢々大帝國の行政に用ひられるやうな高い性質の心力を振ふことがあります。彼等は最高の行政能力を示します。彼等は、大藏大臣が欲するやうな多くの洞察や明智を、小規模ながらに必要とするところの財政上の諸問題を、絶えず取扱はなくてはなりません。しかし彼等に要する能力は常にあくまでも實際的であり、そして實際的な心と精神的な心との間には廣い相違があります。實際的思量の絶えざる緊密なる壓迫は、現在および現在

が必要とするところのものを有効に取扱ふやうなさうした種類の力を發達させますが、より高き心はこれによつて衰へるのであります。吾々が智慧と精神力と呼ぶこの二つの心は鳥類の足と翼とに似ております。鷲や燕は拙く歩くかあるひは全く歩けません、驚くべき飛翔の力を具へております。駄鳥は偉大なる徒步主義者ですが、彼等は空の世界のことを知りません。煩瑣な實務に没頭してゐる人々に對して望むことの出来る最善は、彼等が、鷓鴣や雉のやうに、危急に際して短い飛翔をなし、たとへ二三分間にても、荊株や叢林ほどの高さに昇り得るこゝろです。

それ故、商業に對して何等偏見的侮蔑を意味することなしに、私は其れの心に及ぼす止むを得ざる影響について人々の考慮を勧めたく思ひます。偉大な實際的智慧と豊かな精力との人々にとつては、商業は飽くまで満足なものでせうが、精神的資性の人に對しては決して全然これを満足させることは出来ません。そしてどういふものを追求してもそこには苦役があります。なぜなら文學や繪畫さへそれでもつて充されて居りますから——しかしその中にも精神的資性の者にとつて特に堪え難い苦役があります。彼等の最も堪へ難しとする苦役は、精神的の興味がなくて而かも心をじて思ふ存分勝手な思索に耽らしめるやう器械的にうまく處理することも出来ないといふ、さうした

種類の様々な義務に絶えず注意を拂ふことであります。思想は吾々の周囲の事物から抽け出すことを要求するが故に、深い思想家は有名な放心家で、夢想の自由を拒まれるのは彼等にとつて辛いことであります。精神的な者は路傍の石割人夫のやうに幸福であるかも知れませんが、なぜならその仕事は心を自由にしておくからです。しかし彼はまた確かに鑛山における換氣坑の機關手のやうに怒めでありませう。機關手はその一刹那の放心も他人の生命を危険に陥れるのです。

最近リヴァプールで試みられたグラッドストーン氏の演説の中で、氏は教養を疎略にすることが吾々の商業界の缺點の一つであることを認め、商業界においても學問においても卓越した人が出るやうにといふ希望を述べられました。(おそらくこれはある程度まで夢想におはるでせう)。無論この實例はありました。「商會」が先行者の精力によつてしつかり建設せられた時は、その相續者は監督といふ風な位置に満足して、細かい事務は支配人達に委せ、自分はそれなくしては高い教養の不可能な充分の閑暇を享有することも出来ませう。ところが商業によつて大きな資産を築きあげた者は、あらゆる場合に全精力を業務に投じて、富をもつて目的となし、教養はこれを別の時代に附加さるべきものとして残すやう思はれます。商業的家族の基礎を築く者はこの國では通常偉い常識と

多くの決断力とを具へた人達ですが、しかし文盲であります。

第十二篇 環境

二九六

書翰 一

屢々居住地を變へる友に

一箇所に定住せぬ人々——人の心に及ぼす場所の影響——環境に對する反動——風景畫は其の
一つの結果——餘りに偉大なる自然は人智の活動を阻止す——人の心が環境の色彩に感染される
こと——居住地の撰擇——チャールス・ヂッケンス——ハインリヒ・ハイネ——ラグビーにおけ
るアーノルド博士——湖水地方における彼の家——タイコオ・ブラア——フイーン島に設置せる
彼の研究所——テゲルの城館における若きフンボルト——アレキサンダア・フンボルトの巴里
觀——ジョンソン博士——バツクル氏——カウバア——ガリレオ

五年後には何處に住んでゐるか全然豫想のつかないやうな人達が英國國民のうちで一階級を爲して

ゐる。(そして君もその階級に屬してゐる。)實際君くらの通信の相手として始末に困る人間は居
ない。僕は、まるで知らない人から、ほとんど偶然君の現在の住所を聞いたので、その人も無論、君は
また何處か違つた所へ行く計畫を立てゝゐるが、行く先が何處だつたかは自分も知らないと言つ
てゐた。開化せる英吉利の遊牧民は通常君のやうに自分の資産で食つてゐて、始終移つて歩く費用
に困らぬだけの金があり、しかも資産の運用に氣を遣ふ必要のない連仲だ。金は株券とか鐵道とか
に安全に投資してある。で郵便配達が配當金を持つて來てくれる處でさへあれば、彼は全然物質上
の懸念なしに暮せる。妻君も主人同様に移つて歩くとすれば、この夫婦は風の吹き送るが儘に何處
にでも行つて、最も思ひ掛ないところに着陸する風船かノアの方舟に住んでゐるやうなものだ。

君は場處といふものが人の心に——君自身の心に——及ぼす結果を研究してみたことがあるか？
吾々の性質行爲その他は大部分環境の如何に基き、そして環境が吾々に及ぼす作用は全く反對な性
質の二つの作用のうち何れかだ。吾々は環境との調和を感じるか(その場合環境は吾々に積極的な
効果を及ぼす)でなければ、それに調和しない(そしてこの時環境は吾々を最も奇妙な反動に驅り
立てる)。例へば、マンチエスタアのやうな醜い大都市は、或る人々を煤けた煙突のない處には住め

ないほどの徹底的な町人にするかと思へば、また反對に或る人々のたましひを美しい景色や田舎の
 佗住居に對する熱烈な憧れをもつて充して、そのため彼等は時々繪のやうな山のなかに入つて暮さ
 なければ駄目な程になることもある。近代風景畫の發達は田舎生活の習慣に基くのではなくて、馬
 鹿けて大きな、怖ろしい近代都市の發達に基く。近代都市の發達が人々をして蔭深き森や清らかな
 流れや、また日没や曉や月夜の雄麗な光景を憧れしめたのである。常に美しい風景の中に住んで
 るた者はそれを味ひもせず、味ふことも出来ない、餘りに偉大なる自然の美は人の精神活動を打碎
 く、また其の最善の効果は日常それから遠ざかつてゐる人々の氣保養になることだ、と斯ういふの
 はもう陳腐な觀察である。また、あべこべに、田野の人や山の人は大都市の利便をもつとも強く味
 つて、煉瓦の街に生れた者よりも屢々もつと幸福にそこに往むことが出来る。極めて容易に居住地
 を變へることの出来る人々は、居住地の一つ一つが悉く染物屋の染物桶のやうで、居住者が、それ
 から其れの色もしくは他のどういふ色かを取るの丁度染物屋が染物桶に浸す布地に等しいといふ
 ことをいつも記憶しなければならぬ。君がもし君の過古を振り返つてみるならば、必ずや君はあら
 ゆる場所が君の心の習慣を色附けてゐることを、また他の様々の場所から來た様々の色合が彌が上

に重つて、ずつと以前住んでゐた場所の色合の残りをそれと明かに知ることは六ヶ敷いにせよ、丁
 度繪畫の場合最初に置いた繪具の効果、畫家の所謂疊しや上塗りでもつて幾度も蔽はれてゐるに
 拘らず、全體の作品の上に依然として効果があるやうに、それはやはり依然として残つてゐるもの
 だといふことを認めるだらう。

居住地の撰定といふことは、そこで暮すのが僅か二三年の積りにせよ、精神的見地から見ても、そ
 の結果を如何程説かうとも過大に渉る虞れがないほどに重大な事柄である。吾々は作家の場合に極
 めて明かにこれを見るここが出来、なぜなら彼等の心は他の人々の心よりも容易く、それ故に研
 究するに容易く便利であるからだ。吾々がデッケンスが倫敦の人であり、ブラウニングが伊太利
 に住んだことがあり、またラスキンが瑞西やヴェニスで多くの春秋を送つたことを知るに、何等
 傳記者を要しない。是等三人の作家が愛蘭で生れて、嘗てそこを去らなかつたとすれば、その場
 合彼等の制作の違つてゐたであらうことは確實ではないか？ 吾々の想像を今一層進めて、彼等が
 愛蘭でなく、氷島で生れ、そして一生そこを去らなかつたとすれば、彼等の制作にどういふ變化
 が生じたかを、もしも考へることが出来れば、考へてみよう。彼等の制作は必ずや材料や暗示の不

充分な爲に瘠せかれた貧弱なものではなかつたらうか、彼等は情緒や想像の單純な表現、やさしい歌や物語、さうしたもののほか何も發表しなかつたのではなからうか？ 眼に見るもの耳に聞くもの總て吾々の氣質や思想に影響を及ぼすところがあつて、吾々の最奥のものも一つの場所と他の場所とは同一でない。吾々は最も近くにあるものから反射によつて色合をとり、そして周囲の變ると共にそれを變へるところの白紙に似てゐる。灰色のだらけた部屋では、それは實に灰色にだらけて見える。ところが眞紅や黄色の窓掛がかゝつてゐると、それは薇薔や琥珀の光を浴びるだらう。牡鹿の溪水に慕ひ寄る如く、大都市の生活の流れに赴く人がある。また原始林の寂寥やアルプスの沈黙を求める人々も居る。英吉利の小説家中あの最もボビユリアな人（ゲツケンズの「ゴッシー」譯者）は時々美しい風景の安靜のうちに筆を執るため、永恒の雪の見える瑞西の碧き湖の岸邊に原稿を携へて行つた。しかしその美や平和、純潔な空氣や色彩の甘美な味ひも倫敦の街に對する深い憧れを長い間押へ附けてゐるだけの魅力は無かつた。彼の天才は、蜜蜂が夏の草花を必要とするやうに、街を必要とし、長くそれから離れてゐる時は倦怠を感じた。また灌木の生へた荒野や大洋の吹きや大森林の樹木を磨ける秋風の音を必要とする人々もあつた。あの狭苦しい巴里の下宿屋の寢臺に臥して、それ

魔法使ひマーリンの墓——「ブリタニイ、プロゼリアンデの森の内、碧玉の炎にも似て天空に向つて聳え立つ高大な榿の樹の下にある」マーリンの墓——に比べたさいふハイネの悲しき晩年について、誰か深い憫みを感じない者があらうか？ 「お、わが兄弟マーリンよ」と彼は叫んだ。何たる悲愴の響きのあることよ！ 「お、兄弟マーリンよ、私は清々しい微風をもつたお前の樹々を羨む。巴里のこの私の墓場の傍には木の葉は騒かない。こゝでは朝から晩まで、轍の響きや鐵槌の音や街の喧囂やピアノのからやくいふ音のほか何一つ聞えないのだ！」

アーノルド博士の傳記のうちには、彼の自然美の憧れが彼の持つて生れた一つの癖として幾度も現れて来る。彼はあまり雄大な景色は入用でなかつた、尤もそれを深く喜びはしたけれども。しかし原始的な自然の愛らしさは彼にとつて極めて必要であつて、これの無い時は彼は甚だしい不幸を感じて恰かも渴へたる者のやうであつた。ラグビイは彼に斯うした何物をも呈供しなかつた。「吾々は小山を持たない」と彼は嘆いた。「原野も持たない——一つの森も持たない、たゞ矮林が一つある許りだ。荒地も岩も河も、小さな清流も、草花さへもない——この邊の青色石灰岩は特に草花に乏しいから——四方を圍まれた野と垣根の灌木との無際限の單調あるのみだ。これは私にとつて

日毎の窮乏だ。私は自然に私の磨損防止劑となるものを奪はれてゐるのだ。そして年を取るに従つて私はこれを感じてくる。……ラグビー附近の田舎のこの積極的な退屈さはそれをして單なる勞働所たらしめる。私は散歩の折すら逍遙低徊といふものが出来ない。」

「ウオアウィックシアの内地のこの單調な特色は、自然の美や變化を強く愛した彼にとつて、飽くまでも厭であつた。」とかうアーノルド博士の傳記者は述べてゐる。「この田畑や灌木の無限の連續のなかにあつて、彼がそこに少しでも特色のある點を見附ければそれを出来るだけよいものに考へようとした熱心さ、アヴォンの流の見える處や地平線の認められる地點やさうした二三の場所を愛する喜び、ラグビーから東方に當る退屈な田畑の連りを眺める時の滑稽な絶望、それにはたしかに人の心に觸れるものがあつた。ラグビーから東方を望む時、吾々のウラル山との間に何一つ美しいものもないことを考へれば、博士の絶望も不思議ではない。考へてみられよ。瑞典は少し方角が外れてゐるゆゑ、吾々の視線の通るのは和蘭、獨逸の北部、露西亞の中央である。」

この怖るべき内地の單調さはアーノルド博士をして湖水地方に休日毎に歸るべき家庭をつくらし

(1) これは純粹に教養ある者の悲哀である。單なる農夫は、これ程のことは考へないだらう

め、そこに償ひと氣保養とを求めさせた。そこで博士は自分の眼が憧れる一切を、小流れを、小山を、森を、また野の草花を見出した。また是等の甘美な自然の環境に對する信仰は博士の思ひ誤りではなかつた。かうした本能は吾々を裏切るものではない、賢者のたましひはそれ自身の必要物を、それが供給される以前も後も、よく知つてゐるのである。ウエストモリアランドは彼に彼がそれから得たいと希望したものを悉く、またそれ以上を、與へた。「肉體も心も等しく、退屈なしに、甘い静けさのうちに休息を貪る如く思はれる。その静けさこそ吾々がウエストモリアランドで享樂するところのものだ」と斯う博士は書いた。また「アランバンクで、夏、私は羅馬史の仕事をした。冬、またそれをしたと思つてゐる。アランバンクの吾々の應接間から見えるやうな景色を眼の前に置いて書く時は、非常に氣乗りがする。あすこでは灌木の群が漸次崖や山腹を登つて樹木の中にまぎれ入り、その樹木の頂きを越して、岩角峻しい峯々や家畜共の逍遙する緑の地點が様々の姿して現れてゐるのである。」

ホレースの時代からこちらへ、幸福な境遇にあつて仕事をした多くの精神労働者のうちで、確かにタイコオ・ブラアほど幸福な羨ましい境遇に居つた者は無からう。丁抹王フレデリックが彼にそ

の定住地として一つの愉快な小島を與へた。それは監禁されたやうな氣持のしない程に廣くはあるが(島の周圍は約五哩あつた)また高い壁を繞らした庭園におけるワタアトンの氏のやうに、落着いた籠つた感じのする程に小さくもあつた。土地は豊饒で狩獵の獲物も多く、それ故この科學的ロビンソン・クルーソーの生活は物質的に豊かであつた。そしてコペンハーゲンを距ること約七哩に過ぎないゆゑ、何でも入用な物を取寄せることが出来た。彼はこの小島の中央、海から三四哩ばかりの小高いところに大きな家を建てた。それは彫像や繪畫や、また當時の智恵が星學發達のために工夫することが出来たあらゆる機械や材料を具へ附けた藝術科學の殿堂であつた。富裕な貴族の生活に科學の進歩に資するあらゆる物——その中には彼の機械を具へ附けるための特殊の建物や彼の直接の指導の下に働く印刷所があつた——を併せて、彼は、申分なき安靜の生活を享受し得る程に首都から遠く、餘りなる孤獨の影響を免れる程に近く、住んでゐた。彼自身の訓練した一團の助手に助けられ、君主の獎勵によつて、また特に科學的研究に對する彼自身の搖ぎなき興味によつて支持されて、彼はこの平和な島に理想的な精神生活を送つた。淺い海の波に取り繞かれ、しかしそれに攪亂されずに、彼が仕事をした館、彼が天體の現象を視度つた望樓、それ等は今日文字通り一つの名だ

にも残つてゐない。しかしこのヴラニエンボルグの絶好の平和は、貧に惱まされ、物音やその他様々の邪魔物によつて心亂される同じ星學界のより不幸なる研究者達が、赦さるべき羨望をもつて、記憶するところとなつてゐる。

フンボルト兄弟が松の森によつて伯林から隔てられ、散歩道や庭園でもつて取繞かれた靜かなテゲルの古城で、青年時代を過したといふことは、彼等の多くの幸福な境遇の一つであつた。彼等も、タイコオ・ブラアと同じく、教養にとつて特別好都合な首府に近いといふこと、安靜な生活とを兼有してゐた。後年、アレキサンダー・フンボルトは、その南米旅行の成果として巨多の材料を蒐集して歸つた後、巴里の比類なき利便を厚い感謝の心をもつて味ふた。彼は原始的な自然から彼の心を富ますに必要なものを引き出す術を知つてゐた、しかし彼はまた大都市において初めて有することの出来るあらゆる助力や機會を利用する術も知つてゐた。彼はジョンソン博士やバックル氏の様に、町の生活に惹き附けられるあまり原始的な自然を排斥するやうなことはないと共に、また一方では、カウバアにおいて病的な缺點であつたところの、またこの病氣をもつてゐるものをして田舎生活の止むなきに到らしめるところの、都會の恐怖をも持たなかつた。田舎をもつて思索的な生活

に特別好都合だと考へ、都市の城壁をもつてその牢獄と見做したガリレオすらも、彼の生活中最も善かつたのは彼がバチアで暮した時分のそれであつたと言明してゐる。

書翰 二

心が仕事で張り詰めてゐる者には環境の如何は無頓着だと主張する友に

シラクサ攻圍中のアルキメデス——包圍せられたるアレキサンドリアにおけるジョフロアイ・サンチレール——ヴェルダン砲撃當時のゲーテ——東洋宣教師ルロオ——ジョルダノ・ブルノオ——環境の認められざる影響——フランクフルトのゲーテに及ぼせる影響——大都市——ゲーテ——彼の「園の家」——彼がベランジェおよび巴里について言つたこと——チチアンの幸福な境遇

最も都合の悪い状況の下に精神上の仕事が続けることが出来た人達の有名な實例が古來數多くあるゆゑ、君の議論は事實上の經驗に訴へることによつて有力な支持を受ける譯だ。言ふまでもな

く、第一にアルキメデスがある。彼は、數學上の問題に取り掛つてゐる時は、大攻圍の喧囂からまったく離脱して、全然それを忘れて了ふことが確かに出来たらしい。彼の死について流布されてゐる多くの物語は、それ／＼に違つてはゐるにせよ、環境から精神的に離脱するさういふ習慣を明かに示してゐる。これは前々から周圍の者によつて彼の癖として認められてゐたのである。また工學上の大發明家が、危険ではあるがもう慣れつこになる程長く續いた境遇の下で普斷の通り思索研究に従事することが出来たといふのは、想像し難くない。火藥の使用からしてシラクサ當時の戦争に比べてすつと騒がしくなつてゐる現代の戦争すらも、思考や書き物に慣れた人々にとつてその妨げにならない。ジョフロアイ・サンチレールは、その全生涯中、包圍せられたアレキサンドリアの市中における程着々と規則正しく仕事をしたことは無かつた。「知識といふものは實に良いもので、僕は砲彈が一つ飛んで來さへすれば僕も僕の僅の書き物も瞬く間に地獄に投げ込まれて了ふといふとなど一向考へなかつた」斯うサンチレールは、すつと後になつて當時の經驗談のなかで言つてゐる。いふ按配に丁度その頃二匹の電氣魚が捉へられて彼の處へ持つて來られてゐた、で彼は、まるで巴里で自分の家の陳列室にでも居るやうに、早速實驗を始めて、その後三週間といふもの、雷鳴や炎で

もつて空中を充し、無数の生贅を街頭に曝してゐる烈しい戦争のことなどまつたく忘れて、この實驗に没頭したのであつた。彼は彼を娯さむべく六十四個の假説を有つてゐた、でこれ等を一つ一つ考へてみる時、彼は自分の修得した科學上の知識でそれに關係のあるものを残らず檢めてみる必要があつた。然しながら、彼は砲撃からの危険と彼自身の強度な精神集中から来る危険と、何れの危険により多く曝されてゐるか、それは疑はしい。彼は瘠せ窶れて、廿四時間中一時間しか眠らず、神経的緊張昂奮の危険な状態に生きてゐたのである。ゲーテは、ヴェルダンの砲撃最中、その心をしてそれ獨自の道を行かしめ、それがこの世の悲劇に拘はることなく、彼の周圍の抗争のうちに起る出來事によつて暗示される何事にも動かされることなく、たゞ色彩現象の科學的研究が暗示するものに對する時のみ動き出すこゝを見出した。彼は、ほんの途上の觀察として、戦争の人の心に及ぼす悪影響を、それが如何に人々をして或る日は破壊的に翌日は建設的にならしめるか、如何に彼等を絶望的な状態の下に希望を掻き立てるための言葉に慣れしめ、それによつて僧侶や宮人等の虚偽とはまた別種の虚偽を生み出すかといふことを認めた。彼が戦争について感じたのはこれだけであつた。ところが兵士達が魚を捕つてゐるのを見出すと、彼は非常に考へ込んでその所に惹き付けら

れた、といふのは兵士達に惹き付けられたのではなく、水上の視覺の現象に惹き付けられたのである。彼は決して外的の出來事に多く心を動かされなかつた、また文學科學に左程熱心でない人々によく見るやうな現代政治に對する強い興味も、彼は持たなかつた。東洋宣教師のレイモンド・ルロオは、長い間難澁や危険の間にあつて、あたかも安全な靜かな書齋にでも居るかの様に心の精力や明晰を失はず、多くの書物を書き續けた。ジョルダノ・ブルノオも政治上の難儀や宗教上の迫害の最中にあつて絶えず仕事を續けた、そして彼の傳記者の語るところによれば “il desiderio visissimo della scienza aveva ben più efficacia sull' animo del Bruno, che non gli avvenimenti esterni.” (極めて活潑な科學上の欲望は外界の出來事よりもブルノオのたましいの上に働きかけるところより多かつた。)

今私の心に浮んだ是等の實例や、集めようと思へば集められる多くの他の實例は、少くとも次のやうな事柄の證據になるだらう、曰く最も甚しく人の心を攪き亂すやうな影響の眞中にあつても、一人隠れて研究に没頭することは不可能でないと。しかし是等の場合にすら、環境はどういふ影響をも及ぼさなかつたと結論を下すのは早計であらう。ジョフロアイ・サンチレルがアレキサンド

リアの攻圍によつてひどく昂奮したことは、よし彼が自分の昂奮をこの原因に歸しなかつたにせよ、疑を容れない。彼の心は電氣魚によつて占められてゐたが、彼の神經組織は攻圍の影響を受けて甚だしい緊張の状態を持續し、それが彼をして巨人的な精神労働に堪えしめると同時に、休息を取ることが得ざらしめたのである。もしもこの状態が長びいたならば、結局彼は疲れ果てるか、でなければ狂氣に終つたことであらう。不安の壓迫を免れる爲に文學や科學に心を委ねる人々も稀でない。緊張した精神労働が、少くとも一時、吾々をして不安を忘れさせることもあるのだ。しかし四圍の事情といふものは必ず何等かの影響を吾々の思考に及ぼすので、兩者の關係は明かでないにしても、この事實に變りはない。戰場において視覚の研究に耽ることの出來たゲーテの場合にすら、英吉利の傳記者はこの大作家の幼時彼の周圍を取繞いてゐたフランクフルト生活の影響を認めてる。「フランクフルトの町——、忙がしい群衆を、度々の市を、諸地方の血の混つた住民を、また多くの昂奮の原因をもつた舊いフランクフルトの町——は、この雜駁なる天才に多くの誘惑や養分を提供した。こゝに恐らくは四圍の事情が性格の方向に影響を及ぼすといふことの一例が見られるであらう。……思考や努力の廣い連續は恐らくかうした氣質の人には根本的にそぐはなかつたので

あらう。がそれにしても吾々は四圍の事情が違つてゐたならば彼もさうした性能をもち得たかも知れなかつたと考へざるを得ないのである。もしも彼が落着いた、小さな、古い獨逸風の町に育つて、毎日黙々たる街で同じ顔に出合ひ、同じ人々と接觸してゐたならば、彼の教養はあれ程多様でなかつたかもしれないし、もつと深かつたかもしれない。もしも彼が田舎に生れて、研究の合間に彼の注意を占むるものが只四季の移り變りや自然の甘美な靜寂ばかりであつたならば、彼は確かに違つた詩人になつてゐたことであらう。孤獨な逍遙に費される長い夏の午後、幽暗な幻しに充されつゝ、深まり行く黄昏、必然彼をして層一層内部經驗の變化多く捉へがたき姿に想ひを潜ましめたであらう。徐かな單調な外部生活、是等はまつたく異つた方面の影響を彼の天才に與へ、まつたく異つた精神をもつて彼の作品を生かさねば止まなかつたに相違ない。」

吾々は時として大都市の生活が天才の發達には是非も必要だといふことを聞かされるが、しかしフランクフルトはゲーテの住んだことのある最大の町で、そして彼は巴里も倫敦も何れも訪ねたことが無かつた。彼の天才の健全性は多く彼がワイマルの様な靜な處に居住したことに基いたかも知れぬ。そこで彼はその「園の家」に閉ぢ籠り、イルム河に渡した橋の門を悉く鎖して了ふことが出

来た。「その寂寥は絶対的で」ミリュウイスは言ふ「偶に鳴り出す會堂の時計の音や、兵舎からの音楽や、園のうちに美しい翼を擴げる孔雀の呼び聲によつて破られるばかりであつた。」ゲーテよりも幸福な環境を持つてゐた天才者は少い。彼は安靜を有してゐたが、しかし精神的交通に事缺がなかつた。彼の家から遊山によい程の距離にある風景は興味もあり神興をさゝりさへもしたが、人を威壓する程雄麗ではなかつた。吾々は彼の談話録からして彼が是等の小さな教養の中心の獨逸に對する價值をよく辨へてゐたことを知るのであるが、しかし一箇所彼がベランジュについて話してゐる所に、彼が巴里のより大いなる生活を賞美してゐるやうな調子が見える。「このベランジュがエナカワイマルの貧しい仕立屋の俵に生れて、巴里や、また世界的都市の影響や様々の便宜さは縁が無かつたと想像して御覽。この二つの小都市の何らかで貧しい生涯を送らせて御覽。あゝした土地で、あゝした空氣の中で、果してどういふ果が實つたらう？」

吾々はちつとも吾々自身でなく、吾々自身による何物でもなく、たゞ人類の精神的連鎖——それによつて電氣が吾々の手元まで、また吾々を通して、傳はるところの連鎖——において吾々の占むる場所によるところの何物かであること、そしてもしも吾々が偉大な自然の力を有し、都合のいゝ境

遇にあるならば、この傳達によつて大いさを増すが、さうでなければさういふ事にはならないといふこと、これは吾々が幾度念頭に思ひ浮べてもなほ足りないところである。一人の小兒がカドールなるヴェセリ家に生れる、そして九つの時ヴェニスに伴はれ、セバスタアン・ツカットオの薫陶の下に置かれる。後に彼はベリニの學び舎に赴き、そこに彼よりも一歳年長のバルバレリミ呼ばれる生徒と知合ひになる。彼等はヴェニスにおいて起臥を共にし制作を共にする。それから（後世ジョルジョオネとして知られたる）若きバルバレリは幾枚かの壁、幾枚かの畫布に世間が嘗て見ざりし様の色彩を置いた後天折し、ヴェセリオ——吾々がチチアンと呼ぶ人——は後に残つて、百歳の時疫病が彼の手をミゝむるまでヴェニスで制作を続ける。天才は世に來つた、しかし彼の發達の可能性は悉く懸つて場所と時とにあつた。彼は丁度よい場所に生れ、丁度よい時に來たのであつた。ベリニの時代にヴェニスから程遠からぬ邊りに生れる、九つの時そこに伴はれる、ジョルジョオネを仲間として持つ、是等すべてが美術家の生涯のために幸福であつたのだ、丁度マセドニアなる歴山王の境遇が征服者の生涯のため幸福であつた様に。

立派な新築の書室を裝飾してゐる書家に

書室を造る喜び——門外漢の意見——聖者ベルナル——師父ラヴィグナン——ゲーテの書齋
と寢室——グスターヴ・ドレの書室——レスリーの畫をかく部屋——ターナーの意見——スコツ
トおよびヂッケンスの習慣——極端は結構——俗な凡庸の裝飾は宜しからず——文筆を執る者
美しい眺め——モンテヌ——著者の窓からの眺望

畫家の生活中自分の最も成熟した、完成した作をそこで産み出さうといふ希望をもつて書室を建て、これを裝飾するほど愉快なことはない。美や物質上の慰めに取られながら仕事をするのは實に愉快で、畫家は大きな美しい書室を建てることをもつて彼等の生涯の幸福が一つ附加されるやうに考へてそれを夢想し、夢想の實現より何年も前からそれを計畫するのが常だ。

つい二三日前はこの問題について畫家でない一人の友人と話合つた、そして彼は立派な書室

を愛好するといふことは大部分迷妄に過ぎないと主張したのだつた。彼は廣さとか適當な光線とかの必要は承認したが、彫刻のあるオーク材の家具とか懸毛氈とか、甲冑その他美術家がよく處狭きまでに飾り立てて喜ぶ一種の玩弄品とかはこれを一笑に附した。彼は自分の仕事に没頭してゐる者には周圍に何があらうとまるで氣の附かぬ筈だと言つて、二つの例を擧げた——終日レマン湖の岸を旅して歩きながらそれが眼に入らなかつたといふベルナル聖者と、飾りも何もない部屋で黒く塗つた松材の卓子と廉い蘭底の椅子とを使つて仕事をした師父ラヴィグナンとを、彼は擧げた。そこで僕はリュウイスの「ゲーテ傳」のうちからある條を彼に翻譯して聞かせたところ、それは彼に初めてのもので、彼の持論の裏書として大層彼を喜ばせた。この傳記者はゲーテの書齋と寢室とを次の様に記述してゐる。「書齋は天井の低い、狭い部屋で、二つ小さな窓があるきりだから、いくらか暗い。道具類は見て涙ぐましくなるくらゐの簡單なものである。中央には磨かない櫛材の楕圓形の卓子。肱掛椅子も長椅子も、さうした安樂さを語るものは何も無い。單純な堅い椅子が一脚あつてその傍には彼がいつも手巾を入れておく籠がある。右手の壁に寄せて、長い梨材の卓子があり、傍の書棚には數種の辭書や提要本が載つてゐる。……やはりその壁に寄せて、諸詩人の作の入つた本

箱がある。左手の壁に軟かな木の長い机があつて、そこで彼は書き物をする。現代史のノートを取つた一枚の紙が扉の近くにピンで留めてある。同じ扉が寢室に導く。それは英吉利の貧家の女中すら呟言を言ひさうな、ほとんど寢室の名に値しない、窓の一つ開いた小部屋である。單純な寢床、その傍に一脚の安樂椅子、小さな白い水盤の載つた小さな洗面臺とスポンジ。これだけが道具の全部である。いつもこゝに眠り、最後の眠りをも此處で取つたかの人の偉大さ善良さに對する何等かの感情を抱いてこの部屋に入る者は、自から眼が濕ひ、深い嘆息が出る。」

僕がこの條を読み了へると、友は勝ち誇つたやうに呼び出した。「それ見給へ！ ゲーテは深い生き生きとした想像力を有つてゐたから、仕事をしてゐる時周圍にある物が氣にかゝらなかつたのだ。彼は彫像や繪畫をもつてゐて、心が仕事から離れた時は、それ等に向つて樂しむことも出来たが、筆を執つてゐる間は、寧ろちよつとでも自分の注意を逸らせる様なものゝ見えない無裝飾の小部屋を撰んだ。確かにゲーテのこの撰擇は慎重な最も賢明な考慮からか、天才の確實な本能からか、何らかなのだ。」

友人とこの問題について話してゐるうち、僕は他の幾つかの場合を心の中に思ひ浮べ、そして就中

いつか巴里にグスターヴ・ドレの畫室を訪ねた時に喫した驚きを思ひ出した。ドレはゴシック風の豊かな想像力を有してゐる人ゆゑ、僕はヴィクトル・コーゴオの家のやうな、何らかといふと野蠻な、しかし彫刻のある用筆筒や華かな掛毛氈やまた巴里でいふ *bibles* つまり繪畫的な骨董品などの澤山ある極めて豊富な、面白い畫室を豫想して行つた。ところが、驚いたことに、そこには油繪具のチユーブの散かつてゐる小さな縦板の卓子と二脚の粗末な椅子とのほか（畫布や畫架を除けば）何もなかつた。此處では、確かに、畫くことの歡びだけで美術家の心はいつぱいになるらしかつた。また彼が挿畫を畫く部屋は、單純に秩序を保つための實際的配慮がその特徴で、想像力を悦ばせるためのものは何も無かつた。レスライ氏は家中のどの部屋とも少しも違はぬ、畫室らしい特徴の一向ない部屋で畫くことを常とした。ターナアは扉があつて内部から鏡が掛けられさへすれば、どんな部屋であらうと拘はずに畫筆を握つた。スコットは何處でも、家族の居間で、も執筆することが出来、談話がいつもの通り進行してゐても拘はなかつた。そしてアポッツフォードの邸宅が出来上つた後、彼はその豪華な氣高い部屋々々のどれも執筆に使用せず、周圍に書棚のある單純な小部屋を使用した。ヂッケンズは光線の工合のいゝ、明るい、落ち着いた部屋で作をした、そして彼は

その書物机に滑稽けた小さな青銅像を載せておくことを好んだ。

都合よくそれが出来るならば、如何なるものであれ経験によつて自分の仕事に好影響を及ぼすことが解つてゐる事物を周圍に置いておくといふのが最上の遣り方らしい。僕は修道僧が嘗てそこで祈りを捧げたことがあるといふやうな最も飾りのない部屋が想像的な作にとつて結構であらうと思ふ。またチャツツワースやブレンハイムの最も壯麗な部屋も結構であらう。眞實危険なのは、俗臭のあるどちらとも附かない場所、俗悪な家具、俗悪な繪畫や彫刻である、なぜなら是等のものは屢々仕事の合間に吾々の注意を惹いて、つまらなくそれを支配するから。美術家は常に、畫筆をおいたとき眼を楽しませて好い影響を受けるやうなものを持つてゐる方がよい。僕は美術家を導いて多くの繪畫的な美しい品物を——丁度大自然における如く、眼のために愉快な驚きがあるやう、多少亂雑に——彼等自身の周圍に並べさせるのは、正しい本能だと考へる。

文學者のためには明るい美しい眺望を持つた窓ほど貴重なものはない。筆をおいた時眼の爲にこの保養のあるのは吾々にとつて結構なことで、モンテメが廣い眺望のある塔の上に書齋を置いたのは賢明と言はなければならぬ。廣潤な眺望に對しては、それには籠つた氣樂な感じが缺けてゐる

といふ有名な反對論もあるが、しかしこの反對論は文學者といふ特殊な人間の場合には殆んど適用し難い。吾々の欲するものは籠つた感じよりも寧ろ救はれたやうな、蘇生したやうな感じとか、暗示とかで、そして是等は概して限られた眺望からよりも廣い眺望からより多く得られる。僕は今モンテメのことを引合ひに出したが、こゝで一つ御免蒙つて、あの親愛なる老哲人の自己紹介に倣ひ、僕が今筆を執つてゐる部屋の眺望を君に書いて送らうか。それは絶えず僕を鼓舞し喜ばせてくれるものなのだ。だがそれを書く前に、僕は今一つ別のを書かう、其れの思ひ出は僕にとつて極めて大切なもので、新しく畫れた繪のやうに生き生きしてゐる。もう幾年か前のこと、僕は机から眼を上げさへすれば無盡藏の愛らしさをもつた氣高い入江や莊嚴な山を見るこゝが出来た。微風が恍惚たる小島の群のあたりに、デリケートな白銀色の水面に戯れて、あるひは何物かの明かな影を朧ろに攪き亂し、或ひはそれを長く引き伸し、或ひは何エーケルに渉る青色の漣もてそれを断ち切る有様を眺めるのが、僕にとつて日毎の盡きせぬ歡びであつた。僕はまた屢々雲がクルアカンの峯やベン・ヴォリツヒの金色の頭の邊りに戯れるのを、灰色の霧が谷間から這ひ上るうち、突然日光が彼等を捉へて、彼等が蔽うた雪よりも輝かに照し出すのを見て、楽しんだ。また空が夕暮の灰色

になるとき、南の方に擴つた低地の何リ一グとも知れぬ荒野が突然深い紫と青とのアニリン染料の様になり、そのうちに只一と條橙色が射してゐる！ あゝ、是等は二度と忘れられぬ光景であつた、光と光榮との幻しであつた、深まり行く闇の悲哀であつた。そしてこの時眼は黄昏のうちに漏ひ、秘かにその涙を呑み下すのであつた。

しかも、驚くべき不思議な風景ではありながら、この氣向い、私が熱烈な愛を注いだ蘇國高地の風景は、作家がどうしても必要とするところのある偉きな要素を缺いてゐた。あらゆるあの自然の莊麗のうちに、人間が棲家を有しなかつた。北の方樞の木に蔽はれた半島の陰には、成るほど、古いキルチャーインの灰色の古蹟が未だ遺つてゐた。遙か南西の方、湖水の一方の岸には、アードンネルの島の砦があつた。しかし尖塔や堂宇をもつた都市は一つも見えず、小さき島々、樞の樹が、最大の島には二三の墓石が、ある許りであつた。それ等を越えて彼方には、ブレダルベーンの人住まぬ砂漠があつた。

此處——僕が今これを書いてゐるところ——では、人間がもつと近く、僕のために世々の傳説が世界の表面に書き録されてゐるかのやうである。ヨヴの丘の麓には、僕の前に歐羅巴最古の都市の

一〇 soror et cœnula Romæ (羅馬の競争者にして姉妹) が立つてゐる。彼女はその墻壁や堂宇に二千年の記録を留めてゐる。寺院や拱門やピラミッドが、なほすべて昔の面影を留め、古への堡砦、多くの莊大なる堂塔また然りである。是等すべての上に聳えて、大迦籃の尖塔は朝霧のうちに黒ずんで見え、また屢々明かな夏の夕暮には、斜陽のうちに、背後の峻しい森に對して輝かしく立つ。その時この舊い都市は最も濕かな、もつとも滑かな色調のうちに身縊ひして、迫り来る黄昏の色の中に紅く映える。彼女は遙かに青い小山の重なつた邊りまで、彼女の谷の全部を領するものである。丁度この様に吾々の生涯も自然の愛らしさに圍まれてゐなくてはならぬ——圍まれてはるても、壓服されてはならぬ。

——下卷終り——

附
錄

附 録 (ABC順)

Aの部

- アレキサンダア (Alexander the Great) マセドニア王。古代の大征服者の一人。版圖小亞細亞より印度に及ぶ。(紀元前三五六—三二三)
- アルキメデス (Archimedes) 古代最大の幾何學者。(紀元前約二八七—二〇四)
- アラゴオ (Arago, Dominique Francois) 著名なる佛蘭西の星學者、自然科學者。政界にあつては極左黨の領袖たり。一八四八年の假政府に入りて海陸軍大臣となる。(一七八六—一八五三)
- アーノルド (Arnold, mathew) 教育界の大家アーノルド博士の息子なり。十九世紀有數の詩人にして批評家。(一八三二—一八八八)

Bの部

- ベーコン (Bacon) 近代の最も著名なる哲人の一人(一五六—一六二六)
- ベランジエ (Beranger) 著名なる佛蘭西の叙情詩人。巴里の仕立屋の子なり。熱心なる共和主義者(一七八一—一八五七)

聖バーナード (Saint Bernard) (一〇九一—一一五二) アルガンディに生る。當時の全歐宗教界に強烈なる影響を與ふ。

バツケル (Buckle, William) 英國の人望ある著作家。英國文明史有名なり。(一八二二—一八二二)
 ビュフォン (Buffon, George de) 佛蘭西の著名なる自然科學者にして哲學者(一七〇七—一八八)
 ベーカー (Baker, Sir Samuel White) 著名の探險家。白ナイルの源泉附近の地域を探險し、Albert Nyanza, Great Basin of Nile、その他の著あり。(アルバート、ニアンザは白ナイルの源の一なる大湖なり。)(一八二二—一九三)

C の部

カウバア (Cowper, William) 著名なる英詩人。(一七三二—一八〇〇)

D の部

Dickens (Dickens, Charles) 英吉利の作家中最も廣く讀まるゝ人。(一八二二—一七〇)
 ディスレーリ十九世紀英吉利政界にて最も著名なりし人の一人。小説の著作多く、悉く材を英國上流社會にとる。(一八〇五—一八一)
 ドレ (Doré, Gustave) 佛國の著名なる彫版師、圖案家。テニソン、ダンテその他大家の詩の挿畫を物して成功せり。(一八三二—一八三)

E の部

エマーソン (Emerson, Ralph Waldo) 亞米利加の偉大なる詩人、哲學者。

G の部

ギフォード (Gifford, William) 英吉利の批評家。隔週評論の主たる創立者。(一七五〇—一八二六)

グラツドストーン十九世紀英國最大の政治家。博學雄辯にして徳望あり。著作多し。(一八〇九—一九八)

ゲール (Gail, Jean Baptiste) 佛蘭西の希臘語學者。佛蘭西大學に希臘學を講ず。(一七五五—一八二六) 子息 Jean Francois また斯學に通じ父の後を繼ぎて佛蘭西大學に教授たり(一七九二—一八四五)

グルーツ (Greuze, Jean Baptiste) フランスの畫家。(一七二六—一八〇五)
 ガリレオイタリヤの偉大なる自然哲學者、數學者。

グリーンオ (Greenough Hicratio) 亞米利加最大の彫刻家。(一八〇五—一五二)

H の部

ハクスレー (Haxley, Thomas Henry) 英吉利の著名なる生理學者、自然科學者。(一八二五

(一八九五)

ハイネ (Heine, Heinrich) 獨逸にてゲーテに次ぐ叙情詩人。(一七九九—一八五六)

フーグストラートン (Hoogstraten, van David) 和蘭の畫家。(一六二七—七八)

ユーゴオ (Hugo, Victor) 佛蘭西の偉大なる詩人、小説家。熱烈なる共和主義者にして國を逐はる。(一八〇二—八五)

ヘロデ (Herod, Agrippa) 基督在世當時のユダヤ王

L の部

レスリイ 著名なる歴史畫家 (一七九四—一八五九)

ラ・ブレイエール (La Bruyère, Jean de) 著名なる佛蘭西の作家、道德學者 (一六四六—九六)

M の部

マツセナ (Massena) 奈翁旗下の勇將。(一七五八—一八一七)

ミシユレ 著名なる佛蘭西の歴史家。ジエスイツト教及び羅馬教を攻撃して罪に問はる。(一七九八—一八七四)

ミットフォード (Mitford, Mary Russ) 魅力ある英吉利の女流作家。(一七八六—一八五五)

マーリン (Merlin) 十六世紀の後半に住せりと想像せらるゝ有名なる豫言者にして魔術者。スベンサアの作中に出づ。またカレドニアのマーリンと呼ばれて、六世紀の後半に存在せりと傳へらるゝあり。屢々スコットの作中に出づ。

R の部

ラヴィグナン (Ravignan, Gustave) 佛蘭西のジエスイツト僧 (一七九五—一八五八)

ルナン (Renan, Ernest) 佛蘭西の作家、批評家、東洋學者。基督を人として基督教を論ず。故をもつて羅馬教會より破門せらる。(一八二三—一八九二)

S の部

スワンメルダム (Swammerdam, Jan) 和蘭の科學者。昆蟲學、發生學に關する著書多し。眞摯勤勉、後年健康を損じ、宗教に入る。(一六三七—一八〇)

スピノザ (Spinoza, Benedict) 和蘭の哲學者。著名なる汎神論者なり。(一六三二—一七七)

スマイルス (Smiles, Samuel) 一八二二年生。自助論、品性論その他傳記書の著述多し。

シドニイ (Sidny, Sir Philip) 才識豊なる英吉利紳士の典型。軍人にして著述家。(一五五四—一五九五) エリザベス女皇の信任厚かりしが直言女皇を諫めて貶謫せらる。西班牙軍との闘ひに傷きて死す。

Tの部

チンダル (Tyndall, John) 愛蘭に生れたる著名の物理學者。(二八二〇—九三)
トロローフ (Trollope, Anthony) 英吉利の人望ある作家。(二八一五—八二)

大正十四年二月十五日 印刷
大正十四年二月二十日 發行

精神生活下卷
定價金壹圓八拾錢

著者 布施延雄

發行者 東京市四谷區霞丘十一番地 安原清太郎

印刷者 東京市京橋區北緯町二番地 下間次郎 磨



發行所

東京市四谷區霞丘十一番地

日本青年館
振替東京六〇七七八番

東京市京橋區北緯町二番地

會社 鍛冶橋印刷所

製詳記

日本

日本

論



大正十一年一月十日發行

日

東京

東京

525
215

終

